

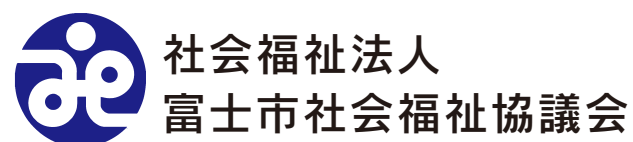
法人設立50周年記念誌

社会福祉法人
富士市社会福祉協議会

法人設立50周年 記念誌

1970-2020

社会福祉法人
富士市社会福祉協議会



〒416-8558 静岡県富士市本市場 432-1 富士市フィナンセ東館 1 階



広げよう 福祉と心の 大きな輪



社会福祉法人

富士市社会福祉協議会

基本理念・職員行動指針

平成30年4月1日 制定

少子・高齢化や人口減少が進む今日、地域を取り巻く環境が様変わりする中で、住民が抱える生活課題も多種多様に変化してきています。こうした中、私たち富士市社会福祉協議会は役職員が一丸となり、あらゆる地域の課題に向き合い、相談・支援や解決につなげ、「だれもが安心してともに暮らせる地域(まち)」づくりに取り組んでまいります。

－基本理念－

社会福祉法人富士市社会福祉協議会は、だれもが住みなれた地域で、いつまでも安心して暮らすことのできる福祉のまちづくりを推進します

－職員行動指針－

1. 私たちは、あらゆる生活上の相談に応じ、住民一人ひとりの尊厳と自己決定を尊重し、その人らしい暮らしができるよう支援します
1. 私たちは、地域に根ざした住民主体の地域活動と、住民のつながりを大切にした福祉のまちづくりを応援します
1. 私たちは、福祉課題を地域全体の課題としてとらえ、行政と関係機関とのパートナーシップによる新たなサービスの創造や提言活動、計画づくりに積極的に関わります
1. 私たちは、サービス利用者の価値観や主体性を尊重し、その人に寄り添う支援を行います
1. 私たちは、常に自己研鑽を重ね、専門性を発揮し職員同士のチームワークと部署間の連携をすすめ、チャレンジ精神をもって業務を遂行します
1. 私たちは法令と社会規範を遵守し、専門職としての倫理と誇りを持ち、信頼され開かれた組織づくりをすすめます

法人設立50周年
記念誌

〈目次〉

法人設立50周年を迎えて
富士市社会福祉協議会会長 井出哲夫 ……1

法人設立50周年に寄せて
富士市長 小長井義正 ……2
富士市議会議長 一条義浩 ……3
静岡県社会福祉協議会会長 神原啓文 ……3
富士市社会福祉協議会 前会長 松本玲子 ……4
富士市町内会連合会会長 荻野克雄 ……4
富士市民生委員児童委員協議会会長 望月 衛 ……5

富士市社会福祉協議会50年のあゆみ ……6

富士市社会福祉協議会歴代会長 ……24

理事・監事 ……25

評議員・評議員選任委員 ……26

旧富士川町社会福祉協議会のあゆみ・歴代会長 ……27

事業紹介 ……29

私たちの50の想い ……41

資料編 ……45
歴代常務理事・事務局長 ……46
会計規模・50年の推移 ……47
令和元年度会計内訳 ……48
組織体系図 ……49
シンボルマーク・福祉の標語 ……50
法人設立50周年記念事業実行委員会・記念誌編集委員会名簿 ……51
〈広告協賛〉私たちは社協を応援します。 ……52

富士市社会福祉協議会 法人設立50周年を迎えて

富士市社会福祉協議会
会長 井出哲夫



社会福祉法人富士市社会福祉協議会は、新型コロナウイルスの感染が続く中、法人設立50周年を迎えました。

これも偏に、本会を多方面から支えていただきました市民の皆様、行政機関や関係諸団体などの方々のご理解とご協力のもと、長きにわたりご支援をいただきました賜と深く感謝申し上げます。

また、これまで本会の運営にご尽力いただきました歴代の会長をはじめ、役員、委員の皆様に対しまして、改めてお礼と感謝申し上げます。

この50年を振り返りますと、高度経済成長、石油ショック、バブル経済を経たデフレによる経済の低迷、阪神・淡路大震災や東日本大震災等の大規模災害の発生など、社会経済は激しく変化いたしました。

その間、福祉制度も大きく変化する社会情勢に対応すべく、社会福祉事業法から社会福祉法へ、介護保険法や障害者総合支援法などが施行されるなど、大規模な制度改正が行われました。

その中で、本会は社会的弱者への援助、高齢者への介護、障害者への支援、ボランティア活動の推進などに取り組みながら、小地域における福祉のまちづくりの重要性を踏まえ、「地区福祉推進会」の結成に取り組む、地域住民の皆様のご支援ご協力のおかげをもちまして、市内全地区に設立することができました。

その後、富士川町社会福祉協議会との合併を経て、本会の運営体制も様々な面で基盤強化が図られました。

時代は「令和」に移り、地域共生社会の実現や地域包括ケアの推進などが叫ばれ、社会福祉協議会もその一翼を担うことが求められています。

また、成年後見制度や生活困窮者自立支援への取り組み、少子高齢化への対応など、市民一人ひとりの多様性にも寄り添いながら事業を進めていかなければなりません。

何よりこの50年はひとつの通過点であり、60年、70年、100年を見据え、不易流行の精神を保ちながら社協が一層発展をすることを願っております。

そして福祉を通じて、社会を、地域を耕していくことが社協の使命と考えております。「だれもが住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らすことができる福祉のまちづくり」を基本理念として、全役職員一丸となって、社会福祉の充実に取り組んでまいりますので、皆様方の一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

結びに、この記念誌発行にあたり多くの企業、法人、団体、個人の皆様から温かいご協賛をいただきましたことに深く感謝を申し上げますとともに、皆様方のますますのご健勝とご多幸、ご活躍をご祈念申し上げます。

富士市社会福祉協議会 法人設立50周年を祝して

富士市長
小長井義正



この度、富士市社会福祉協議会が法人設立50周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

貴協議会は、2市1町の合併に合わせて昭和41年11月に創立され、昭和45年4月に関係各位のご努力により社会福祉法人として認可されました。

その後、各福祉施策が整備されつつあった、昭和の転換期を経ながらも、低所得者や障害者、高齢者などのいわゆる社会的弱者への援護を中心に福祉事業を実施してこられました。

社会福祉法により、社会福祉協議会が地域福祉を推進する中核団体として位置づけられる中で、貴協議会は、地域福祉の推進主力団体として市内全域に組織化した地区福祉推進会による活動を中心に、地域福祉活動を展開していただいております。

本市との関係におきましては、常に連携体制をとり各種協働事業、委託事業や指定管理事業の受託など、富士市全体の社会福祉の充実と向上に大きな役割を担っていただいておりますことに深く感謝いたします。

近年では、市民後見人、法人後見制度を含めた成年後見支援センター、生活困窮者自立支援事業やユニバーサル就労支援事業、新型コロナウイルス感染症対策特例貸付など、市民の生活に直結した事業に取り組まれており、市民一人ひとりに真摯に向き合う貴協議会の姿勢に対する市民からの信頼度、期待度はますます高まっております。

また、貴協議会の活動は、少子高齢化を見据えた地域共生社会づくりの推進など、本市が考えるまちづくりにも結び付くものであり、今後も地域福祉活動やボランティア活動など、貴協議会ならではの様々な手段を駆使した社会福祉事業への取組を積極的に展開されることを期待しております。

結びに、富士市社会福祉協議会におかれましては、地域福祉のリーダー役として関係諸団体との連携を深めながら、地域福祉の発展に更なるご尽力を賜りますようお願い申し上げますとともに、ますますのご発展とご活躍を祈念して、お祝いの言葉といたします。

富士市社会福祉協議会法人設立50周年を祝して

富士市議会 議長 一条 義浩

富士市社会福祉協議会が法人設立50周年を迎えられ、この佳節に記念誌が発行されますことを、心からお喜び申し上げます。

貴協議会は、昭和45年に社会福祉法人として認可を受けて以来、地域福祉を進める先導役として、町内会組織や民生委員児童委員、各種関係団体と協力・連携を図り、本市の地域福祉活動を展開してこられました。長年にわたり活動に携わってこられました役員・職員の皆様のご尽力に対しまして、深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

近年、急速な少子高齢化の進行や生活様式の変化に伴い、複雑・多様化する福祉ニーズは増大し、地域福祉を取り巻く環境は大きく変容してきております。

こうした中、貴協議会は、住民主体による地区福祉推進会の市内全域への組織化をはじめ、日常生活自立支援事業及び成年後見制度の充実、ユニバーサル就労支援事業の推進に取り組むなど、市民に寄り添った活動は「住民の立場に立った社協」として広く市民に認知されております。

このような地域の特性を踏まえた貴協議会の活動は、今後ますます重要なものとなってくることから、皆様には引き続き、本市の地域福祉の推進にご尽力をいただきますようお願いいたします。

市議会といたしましても、市民の声を市政に反映させ、明るく住みよい福祉のまちづくりを推進して参る所存であります。

結びに、富士市社会福祉協議会のますますのご発展と、皆様のご健勝とご活躍を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



富士市社会福祉協議会設立50周年を祝して

静岡県社会福祉協議会 会長 神原 啓文

このたび、社会福祉法人 富士市社会福祉協議会が設立50周年を迎えられましたこと、心からお慶び申し上げますと共に、本記念誌が発刊されますことを重ねてお祝い申し上げます。

貴会が、昭和45年4月に法人認可を受けられてから、50年の永きに亘り、地域福祉の推進に中核的な役割を果たしてこられたことは、歴代の会長様をはじめ、役職員並びに関係者の皆様、そして富士市民の皆様方の御努力と熱意の賜物であり、衷心より敬意を表する次第であります。

近年、急速な少子・高齢化や人間関係の希薄化などを背景に、社会の姿は大きく変化し、また地球温暖化と関係したと思われる自然災害の多発や世界的な感染症の蔓延などによって、人々が直面している生活課題は複雑、多様化しています。

これらの課題に対し、貴会では「誰もが安心して、ともに暮らせる地域」の実現を目指して、市民一人ひとりの福祉意識を高め、地域福祉活動への積極的な参加と活動のネットワーク化に取り組んでこられ、また、いち早く市民後見人を養成するなど、「ともに支え合う地域づくり」に尽力されておりますこと、大変心強く感じております。

私ども静岡県社会福祉協議会といたしましても、これまで貴会と力を合わせ、福祉のまちづくりに取り組んでまいりましたが、今後もさらに強く手を携え、パートナーとして、「地域共生社会の実現」に努めてまいりたいと考えておりますので、引き続き御支援、御協力を切にお願い申し上げます。

結びに、大きな節目となる50周年を契機に、貴会の益々の御発展と皆様の御活躍を御祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



ともに手をつなぎ50年 ～誰もが幸せを実感できる、福祉のまちの実現をめざして～

富士市社会福祉協議会 前会長 松本 玲子

富士市社会福祉協議会が、法人設立50周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

その歴史の中で自身の関わりを顧みますと、平成24年5月の会長就任時、富士市として初めての女性会長ということで、周囲の緊張と私自身の緊張があいまって、非常に硬くなりながらあいさつをしたことを覚えています。「誰もが幸せを実感できる、福祉のまちの実現」を目指し、ちいさな意見にも耳を傾け、実行に移していく。そんな決意を胸に、会長としての任期をスタートしました。

在任中を振り返ると、「市民とともに社協がある」ことや、地道に実施している各種の福祉事業を伝える手段として「ラジオf」で社協提供番組が始まりました。またフィナンセ東館1階の「福祉相談室」や「くらし・しごと相談窓口」の運営を受託すると共に、2階には成年後見支援センターを市と共に開設、その後の市民後見人誕生につながる端緒となりました。施設経営面では、障害者就労支援施設「市民ふれあいバンク」の建て替えを行い、さらに市より富士川地域福祉センターを譲り受けた事により、経営面の安定化を図りました。在任は4年間でしたが、市民の社会福祉への期待に添うべく、役職員や関係機関、そして市民とともに手を携えながら、一つひとつの事業に取り組んできたつもりです。これらが、今後の社協の礎になっていたならば努力も報われるかな、と思っています。

IT化や情報化がますます進む昨今ですが、今後も、市民とともに、一人ひとりのふれあいを通じ、相手を思いやる気持ちを育むことで、誰もが幸せを実感できるまちを作るための社協であってほしいと心より願っています。



富士市社会福祉協議会法人設立50周年を祝って

富士市町内会連合会 会長 荻野 克雄

富士市社会福祉協議会が法人設立50周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。貴協議会におかれましては、富士市民の誰もが身近な地域社会で安心して生活することが出来るように、さまざまな事業を展開し、支えていただいておりますことに深く感謝申し上げます。富士市町内会連合会は、会員の一員として貴協議会の発展と充実に積極的に協力並びに支援をさせていただいております。

貴協議会の主力事業として、市民が互いに助け合う関係づくりを深めるため、市内26ヶ所すべてに「地区福祉推進会」が組織され、各地区の特性を活かした福祉のまちづくりが展開されています。今後ますます少子・高齢化や人口減少が進み、地域を取り巻く環境が様変わりし、市民が抱える生活課題も多種多様に変化する中、その課題解決に向け、貴協議会の役職員が一丸となり、誰もが安心してともに暮らせる社会の実現のため、尚一層取り組んでいただきたいと思います。

結びに、法人設立50周年を節目に、栄ある伝統を基盤として、激動するこれからの社会情勢に富士市社会福祉協議会がさらに、力強く富士市民のために大きく飛躍されるように祈願して、お祝いの言葉とさせていただきます。



設立50周年を祝して

富士市民生委員児童委員協議会 会長 望月 衛



この度は、「富士市社会福祉協議会法人設立50周年」誠におめでとうございます。今年は「新型コロナウイルス」が猛威を振るい、市民を取り巻く生活環境は様変わりし、経済的にも大きく影響をもたらしています。そんな中、貴協議会において、コロナ感染対策の影響で、生活が苦しくなった方たちの支援をするための特例貸付を積極的に行うなど、どんな時も、生活困窮者に寄り添う姿に感謝しております。

これまで、民生委員児童委員は、社会福祉協議会の誕生から、民間社会福祉活動の貴重な資源である、赤い羽根共同募金や社協会費の増強運動などに協力してまいりました。また、低所得者世帯への支援や各種の福祉課題への対応、住民福祉活動への参加促進など、民生委員児童委員と社協が両輪となって、豊かな地域社会を育むため、多くの活動に取り組んできました。

今後も、民生委員児童委員協議会は、福祉の一角を担う立場として、市民皆様のご協力をいただきながら安心・安全な福祉のまちを目指し、社会福祉協議会の活動に参画し、より良い富士市にしていきたいと考えております。

結びに、富士市社会福祉協議会の益々のご発展・ご活躍を祈念申し上げ、祝辞とさせていただきます。



富士市社会福祉協議会の50年のあゆみ

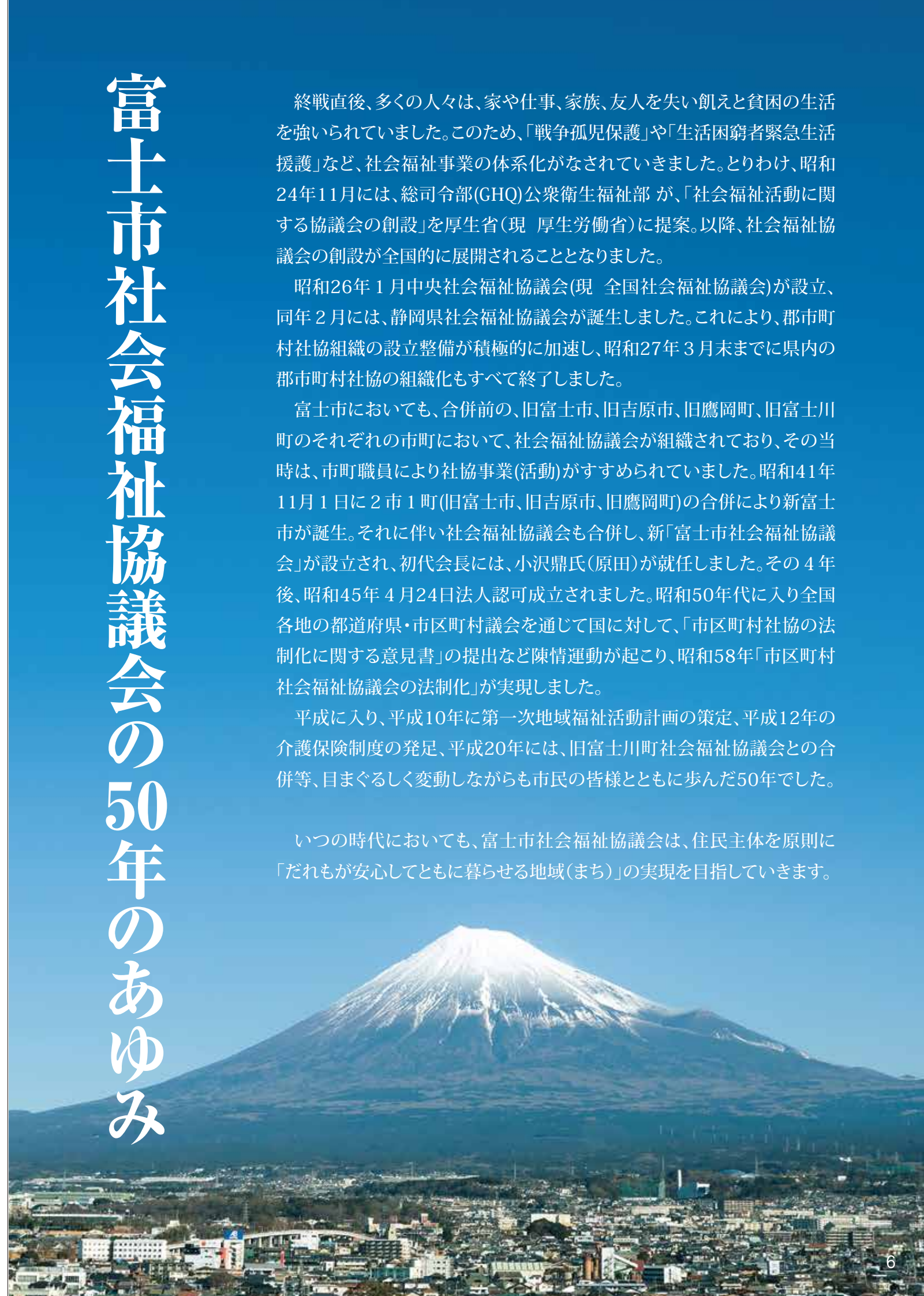
終戦直後、多くの人々は、家や仕事、家族、友人を失い飢えと貧困の生活を強いられていました。このため、「戦争孤児保護」や「生活困窮者緊急生活援護」など、社会福祉事業の体系化がなされていきました。とりわけ、昭和24年11月には、総司令部(GHQ)公衆衛生福祉部が、「社会福祉活動に関する協議会の創設」を厚生省(現 厚生労働省)に提案。以降、社会福祉協議会の創設が全国的に展開されることとなりました。

昭和26年1月中央社会福祉協議会(現 全国社会福祉協議会)が設立、同年2月には、静岡県社会福祉協議会が誕生しました。これにより、郡市町村社協組織の設立整備が積極的に加速し、昭和27年3月末までに県内の郡市町村社協の組織化もすべて終了しました。

富士市においても、合併前の、旧富士市、旧吉原市、旧鷹岡町、旧富士川町のそれぞれの市町において、社会福祉協議会が組織されており、その当時は、市町職員により社協事業(活動)がすすめられていました。昭和41年11月1日に2市1町(旧富士市、旧吉原市、旧鷹岡町)の合併により新富士市が誕生。それに伴い社会福祉協議会も合併し、新「富士市社会福祉協議会」が設立され、初代会長には、小沢鼎氏(原田)が就任しました。その4年後、昭和45年4月24日法人認可成立されました。昭和50年代に入り全国各地の都道府県・市区町村議会を通じて国に対して、「市区町村社協の法制化に関する意見書」の提出など陳情運動が起こり、昭和58年「市区町村社会福祉協議会の法制化」が実現しました。

平成に入り、平成10年に第一次地域福祉活動計画の策定、平成12年の介護保険制度の発足、平成20年には、旧富士川町社会福祉協議会との合併等、目まぐるしく変動しながらも市民の皆様とともに歩んだ50年でした。

いつの時代においても、富士市社会福祉協議会は、住民主体を原則に「だれもが安心してともに暮らせる地域(まち)」の実現を目指していきます。



50年のあゆみ

時代と話題

■日本万国博覧会開幕
(大阪万博)

■アポロ13号打ち上げ

■マクドナルドの日本1号店
銀座に開店

■カップヌードル発売

■沖縄返還

■札幌オリンピック開催

■山陽新幹線開業

■第一次オイルショック
(トイレトペーパー、
洗剤の買い占め騒動)

■70歳以上老人医療費
無料化

■セブン-イレブン
第1号店が開店

■巨人軍の長嶋茂雄選手
引退

■山陽新幹線全線開業

■ベトナム戦争終了

■モントリオールオリンピック開催

■ロッキード事件

■「およげ!たいやきくん」
大ヒット

■国民栄誉賞が創設
王貞治氏が受賞

■日航機ハイジャック
事件

1970
(昭和45年)

1971
(昭和46年)

1972
(昭和47年)

1973
(昭和48年)

1974
(昭和49年)

1975
(昭和50年)

1976
(昭和51年)

1977
(昭和52年)

※事業名等は、当時の名称で示してあります。

富士市社会福祉協議会のあゆみ

※年は年度を表します。

- 昭和45年
- 社会福祉法人富士市社会福祉協議会法人認可成立 昭和45年4月24日
 - 赤い羽根共同募金運動 (一世帯 70円)
 - 重度障害児及び交通遺児福祉手当事業(受託)
 - 法外援護・小口資金貸付
 - 心配ごと相談所の開設
 - 事務局職員体制 3名
 - ＜事務局 市庁舎 2階出納室(当時)内＞

- 昭和46年
- 社協会費 一世帯 100円(普通会費)
 - ＜事務局 市庁舎 1階売店(当時)隣に移転＞

- 昭和47年
- 家庭奉仕員派遣事業(受託)
 - 障害児保育訓練事業(受託)
 - 静岡県社会福祉大会において
「優良社会福祉協議会」県社協会長表彰受賞

- 昭和48年
- 第1回富士市社会福祉大会開催(市共催)
 - 共同募金 一世帯 100円



昭和45年共同募金ポスター
(資料協力 中央共同募金会)

富士市の福祉のできごと

※年は年度を表します。

- 昭和45年
- 富士市庁舎開庁(富士市永田町)
 - 市立精神薄弱者授産施設「くすの木学園」開園
- 昭和46年
- 田子の浦港ヘドロ処理作業開始
 - 富士市民を乗せた全日空機遭難事故
 - 第1回富士市福祉展開催
- 昭和47年
- 社会福祉センター「広見荘」開所
 - ひとり暮らし老人非常ベル設置事業開始
- 昭和48年
- 乳幼児医療費助成制度開始
 - 重度心身障害児(者)医療費助成事業開始

富士市社会福祉協議会のあゆみ

※年は年度を表します。

- 昭和49年
- 家庭奉仕員を増員
 - ねたきり老人入浴サービス事業(受託)
 - 結婚相談所の開設
 - 奉仕銀行を設置
 - ＜事務局 市庁舎 2階福祉事務所(当時)西側に移転＞

- 昭和50年
- 初の地域懇談会開催
 - 初の社会福祉アンケートの実施

- 昭和51年
- 視覚障害者へのニーズ調査

- 昭和52年
- 視覚障害者への「声の広報」開始
 - 高額療養費貸付事業開始
 - ＜事務局 市庁舎10階環境部清掃管理課(当時)隣に移転＞

エピソード

巡回入浴サービス事業の際、巡回入浴車の運転手の方が
休んだ時、事務局職員が運転していました。慣れてないせい
か、ホースの巻き方やら、簡易浴槽の出し入れなどに苦労し
たことを思い出します。



広報ふじ(昭和49年10月25日号)より
「巡回入浴車の入浴訓練を行う
家庭奉仕員のみなさん」



富士ニュース(昭和52年7月15日)より
「社協事務局が市庁舎10階へ移動」

富士市の福祉のできごと

※年は年度を表します。

- 昭和49年
- 精神障害者医療費助成制度開始
 - 心身障害児通園施設「そびな保育園」の設置
 - 巡回入浴車「いずみ号」稼働
 - 住民登録人口 200,000人突破(50.2.8)
- 昭和50年
- 滝川福祉センターの開設
- 昭和51年
- 特殊寝台貸与事業
 - 市内初の放課後児童クラブ開設
- 昭和52年
- 「そびな学園」・「ふじやま学園」・
「くすの木学園」の三施設を統合
「富士市立総合育精施設」に改編

時代と話題

- 成田国際空港完成
■日中平和友好条約調印
■宮城県沖地震
- 第二次オイルショック
■国公立大初の
共通一次試験実施
- モスクワオリンピック開催
(日本はボイコット)
■静岡駅前の地下街で
ガス爆発
- スペースシャトル
「コロムビア」打ち上げ
■神戸ポートアイランド
博覧会
- 500円硬貨発行
■東北新幹線・上越新幹線開業
■ホテルニュージャパン火災
- 東京ディズニーランドオープン
■三宅島大噴火
■大韓航空機撃墜事件
- 紙幣発行
1万円:福沢諭吉
5千円:新渡戸稲造
千円:夏目漱石
■グリコ・森永事件
■ロサンゼルスオリンピック開催
- ファミコン大ヒット
■日本航空123便墜落事故
■電電公社と日本専売公社
民営化



富士市社会福祉協議会のあゆみ

※年は年度を表します。

富士市社会福祉協議会のあゆみ

※年は年度を表します。

- 昭和53年**
 - 福祉を育てる県民運動を県が提唱
 - 小規模授産所「あすなろ作業所」(現 ふじひろみ)の設置
 - 小規模授産所「清流作業所」(現 ひめな)の設置
 - 普通会費 一世帯 200円
- 昭和54年**
 - 国民年金特例納付保険料貸付事業(受託)開始
- 昭和55年**
 - 高額療養費貸付事業件数の増大
 - ボランティアセンター「ほのぼの広場」の開設(富士市中央町)
 - 車椅子、アイマスクの体験講座の開催
 - ボランティアふじの発行
 - 小規模授産所「つくし作業所」の設置
 - ねたきり老人介護者慰問金支給事業開始
- 昭和56年**
 - ほのぼの広場一周年記念事業開催
 - 交通遺児援護基金の設置



社協だより第5号(昭和56年8月)より「ボランティアセンターほのぼの広場」



第1回福祉まつり「市役所駐車場におけるステージ」

富士市の福祉のできごと

※年は年度を表します。

富士市の福祉のできごと

※年は年度を表します。

- 昭和53年**
 - 歩行補助杖等貸与事業開始
- 昭和54年**
 - 福祉バスの運行
 - 手話通訳者派遣制度開始
- 昭和55年**
 - 母子家庭医療費助成制度開始
 - 社会福祉センター「田子浦荘」開所
 - 重度障害児(者)日常生活用具給付等事業開始
 - 心身障害児(者)家庭奉仕員派遣事業開始
- 昭和56年**
 - 老人短期入所事業開始
 - 国際障害者年「完全参加と平等」
 - 第1回福祉まつり(ふれあい広場)開催
 - 第1回健康展(健康まつり)開催
- 昭和57年**
 - 養護老人ホーム「駿河荘」の開設
 - 老人・障害者住宅整備資金貸付制度
- 昭和58年**
 - ひとり暮らし老人食事サービス事業を開始
 - 富士市民憲章制定
- 昭和59年**
 - 紙おむつ支給事業開始
- 昭和60年**
 - 老人ホーム入所判定委員会の設置

- 昭和57年**
 - 交通遺児援護事業開始
 - 福祉まつり実行委員会の事務局を担う第2回福祉まつりの開催
 - 沼津市、御殿場市との共催で高校生ワークキャンプ実施
 - ＜事務局 市庁舎3階北側国保年金課(当時)隣に移転＞
- 昭和58年**
 - 富士市単独で高校生ワークキャンプ実施
 - 小規模授産所「市民ふれあいバンク」の設置
 - 市区町村社協法制化(10月)
 - 共同募金 一世帯200円
- 昭和59年**
 - おもちゃ図書館(そびな学園内)開始
 - 小規模授産所「鷹身工芸社」の設置
- 昭和60年**
 - 非常勤家庭奉仕員の配置
 - 地域福祉活動、在宅福祉活動の充実・強化

エピソード

星野富弘「花の詩画展」が昭和58年5月に開催されました。星野さんは、群馬県の中学校教師で部活の指導中、事故に遭い全身マヒとなり、唯一動く口に筆をくわえ絵や詩を描いています。この「詩画展」は、ボランティアの主催で、社協も応援させていただきました。この展示会において、多くの人たちに深い感動と勇気を与えてくれたことが、今でも心に刻まれて残っています。



広報ふじ(昭和58年6月5日号)より3日間で9千人の来場者があった星野富弘「花の詩画展」

時代と話題

- バブル景気始まる
- 伊豆大島の三原山が噴火
- 大韓航空機爆破事件
- 東北自動車道が全線開通
- 俳優・石原裕次郎が死去
- 国鉄が分割・民営化され、JRグループ7社が発足
- 青函トンネル開通
- 東京ドームが完成
- 瀬戸大橋が開通
- ソウルオリンピック開催
- 昭和天皇崩御、「平成」に改元
- 消費税3%導入
- 中国天安門事件
- 歌手・美空ひばりが死去
- バブル経済崩壊で株が暴落
- 第1回大学入試センター試験実施
- 東西ドイツ統一
- ソビエト連邦崩壊
- 若貴の活躍などで大相撲ブーム
- 湾岸戦争勃発



富士市社会福祉協議会のあゆみ

※年は年度を表します。

富士市社会福祉協議会のあゆみ

※年は年度を表します。

- 昭和61年
- 付添看護料貸付事業開始
- 巡回入浴車増車、2台で運行

- 昭和62年
- 小規模授産所「鷹身工芸社」移転改築
- ねたきり老人等介護者慰問事業開始
- 市民福祉まつり(福祉・健康・安全)拡大
- 結婚相談事業日曜日実施(第二日曜日)

- 昭和63年
- ボランティアセンター「ほのぼの広場」が富士市保健婦人センター3階社協事務局隣に移転
- 富士市保健婦人センター内(1階)にふれあい喫茶を開業
- ボランティアのまちづくり事業(ボラントピア事業)の指定
- 富士南地区福祉推進会発足 市内初
- 小学生親子福祉体験講座の開催
- 小規模授産所「竹の子」の設置
- シャワー椅子貸与事業開始
- ＜事務局が市庁舎から富士市保健婦人センター3階に移転＞

エピソード

当時は、「社協」より社教(当時の社会教育推進会の略称、現在の生涯学習推進会)に間違われ、事務局に文化祭の作品を持ち込まれたり、問い合わせの間違いなど、よく誤解され、市民に「社協」への理解を仰ぐのに苦慮しました。



ボラントピア事業
富士南地区三世代交流大集会
風揚げ大会

- 平成元年
- 小規模授産所「つくし作業所」を中央町へ移転し、「吉原つくし」に名称変更
- 中学生福祉体験講座の開催
- 福祉教育実践校の指定
- 介護ボランティア講座の開催
- 小規模授産所「ふれあいショップあゆみ」の設置
- さわやかコール事業(ひとり暮らし老人安否確認運動)開始
- 地区福祉推進会発足(富士見台、今泉、吉永)
- 福祉図書館を整備(ボランティアセンター内)



小規模授産所「吉原つくし」

- 平成2年
- ボラントピア事業の指定終了後、フォローアップ事業の継続
- 小規模授産所「清流作業所」が「ふじいずみ」に名称変更し原田に移転
- 地区福祉推進会発足(天間)

- 平成3年
- 国際障害者年「最終記念公演」富士市公演(スウェーデン盲人ロックバンド「エコー」コンサート)
- 地区福祉推進会発足(須津)
- 日常生活用具貸与事業開始(ベッド、エアーマット、車いすの貸し出し開始)
- 事務局が一部局制から二係制に(管理係・地域福祉係)

エピソード

職員体制が十分でなく、一人の職員が6地区の地区福祉推進会を担当していた時代。さらに発足前の2～3地区を支援することになり毎晩のように会議、毎週土日にイベントがあり、目が回るほど忙しかったことを思い出します。

富士市の福祉のできごと

※年は年度を表します。

富士市の福祉のできごと

※年は年度を表します。

- 昭和61年
- 長寿祝い金制度化
- 昭和62年
- ねたきり老人、痴呆老人介護慰労金支給事業開始
- 富士市福祉基金の設立
- フェスタ富士20開催
- 昭和63年
- 富士市保健婦人センター開設
- 社会福祉センター「東部市民プラザ」の開所
- 緊急通報システムの導入

- 平成元年
- 高齢者介護ホームの設置
- ガイドヘルプサービス事業開始
- 平成2年
- 社会福祉センター「鷹岡市民プラザ」の開所
- 富士市勤労者総合福祉センター「ラ・ホール富士」開設
- 市役所第二第四土曜日閉庁(H3.1.6)
- 平成3年
- こども療育センター開設
- 元町福祉センター開設
- ねたきり老人等寝具クリーニングサービス事業開始

時代と話題

- バルセロナオリンピック開催
岩崎恭子が金メダル獲得(水泳)

■国家公務員の週休2日制スタート

■公立学校で週5日制スタート
- 皇太子・雅子さま御成婚

■サッカーJリーグ開幕

■レインボーブリッジ開通

■北海道南西沖地震
- 日本人初の女性宇宙飛行士
向井千秋さん宇宙へ

■大江健三郎氏が
ノーベル文学賞受賞

■リレハンメル冬季オリンピック開催
- 阪神・淡路大震災

■地下鉄サリン事件
- アトランタオリンピック開催

■海の日施行

■病原性大腸菌「O157」大流行
- たまごっち大ヒット

■消費税率を5%に引き上げ

■秋田新幹線・北陸新幹線開業
- 和歌山カレー事件

■長野冬季オリンピック開催

■郵便番号7桁化



富士市社会福祉協議会のあゆみ

※年は年度を表します。

- 平成4年

○「ふれあいのまちづくり事業」国から指定
○移動相談事業(ふれあい相談)実施
○女性のための結婚相談実施
○地区福祉推進会発足(岩松)
○ガイドヘルプサービス事業開始
○企業の社会貢献事業(フィランソロピー)
- 平成5年

○3級ホームヘルパー養成研修実施
○新任教員福祉体験講座実施
○普通会費 一世帯 300円
- 平成6年

○出会いふれあいパーティーの開催
○企業ボランティア活動研究会を設置
○地区福祉推進会発足(富士駅南)
- 平成7年

○移送サービス事業(おおぞら号)開始
○地区福祉推進会発足(丘)



移送サービスボランティア研修会



新任教員福祉体験講座(高齢者疑似体験)

富士市社会福祉協議会のあゆみ

※年は年度を表します。

- 平成8年

○地域福祉活動計画策定委員会及びワーキンググループの設置
○30秒ボランティア事業の推進
○小規模授産所「ふじいずみ」の廃止
○小規模授産所「ひめな」の設置
○地区福祉推進会発足(浮島・原田)
- 平成9年

○2級ホームヘルパー養成研修を実施
○要約筆記ボランティア養成講座の実施
○地区福祉推進会発足(元吉原)
- 平成10年

○(財)富士市社会福祉事業協会を統合し、
社会福祉センターの運営を受託
○心身障害児(者)を守る会から小規模授産所の
運営主体移管
○災害ボランティア連絡会発足
○第一次地域福祉活動計画の開始
○託児ボランティア養成講座の開催
○地区福祉推進会発足(鷹岡・伝法・富士駅北)

エピソード

当時、小・中・高校生から地域住民まで、あらゆる世代にわたって、福祉体験講座等の福祉教育プログラムを実施し、その修了生が介護現場やボランティアとして活躍してくださっていることに感銘を覚えたことが今でも鮮明に心に残っています。



社会福祉センター「広見荘」

富士市の福祉のできごと

※年は年度を表します。

- 平成4年

○高齢者日常生活用具等貸与事業開始
○富士市地域福祉計画策定
- 平成5年

○重度身体障害者特殊寝台貸与事業開始
○在宅重度身体障害者紙おむつ支給事業開始
○富士市高齢者保健福祉計画策定
- 平成6年

○薬科母子福祉基金設立
○障害者福祉マップ作成
○富士市保健計画策定
- 平成7年

○新中央図書館の開館
○障害者福祉マップ完成
- 平成8年

○新市施行30周年記念式典を举行
○富士マリンプール開園
- 平成9年

○訪問看護ステーション開設
○民間在宅福祉サービス運営費補助制度創設
- 平成10年

○介護保険準備室開設
○富士市地域子育て支援センター(トライアングル)開設
○富士市児童育成計画策定
○富士市障害者計画策定
○身体障害者福祉タクシー設置事業開始

時代と話題

- ヨーロッパ単一通貨ユーロ導入
- 静岡県富士山こどもの国開園
- シドニーオリンピック開催
- 新紙幣2000円札発行
- 新五百円硬貨発行
- 介護保険法施行
- イチローが野手として日本人初の
大リーガーとなる

- 東京ディズニーシーオープン
- ユニバーサル・スタジオ・ジャパン
オープン
- アメリカ同時多発テロ事件
- 大阪池田小学校児童殺傷事件

- ソルトレイクシティ冬季オリンピック開催
- 2002 FIFAワールドカップ日韓共同開催
- 東北新幹線開通
- イラク戦争勃発
- 日本郵政公社発足
- 重症急性呼吸器症候群(SARS)が世界的流行
- 支援費支給制度開始

1999
(平成11年)

2000
(平成12年)

2001
(平成13年)

2002
(平成14年)

2003
(平成15年)

富士市社会福祉協議会のあゆみ

※年は年度を表します。

富士市社会福祉協議会のあゆみ

※年は年度を表します。

- 平成11年
- 社協モニター制度の開始
- 東部デイサービスセンター「ほほえみの家」開設
- 地域福祉権利擁護事業(受託)の開始
- 在宅介護者家族の会発足
- 中央在宅介護支援センターの運営(受託)
- 平成12年
- 介護保険関係事業を開始
- ふれあい・いきいきサロン事業開始
- 生きがいデイサービス事業を開始
(健康クラブ・元気クラブ・すこやか倶楽部)
- 福祉機器リサイクル事業(受託)の実施
- 夏休み福祉なんでも相談実施
- 地区福祉推進会発足(吉原・田子浦)
- 事務局三係制へ(管理係・地域福祉係・在宅福祉係)
- 平成13年
- 小規模授産所「まつぼっくり」の設置
- 母子寡婦福祉会発展的解散
- 地区福祉推進会発足(岩松北・青葉台・神戸)
- 介護保険事業者連絡協議会発足



社協モニター会議



「夏休み福祉なんでも相談」手話コーナーより

富士市の福祉のできごと

※年は年度を表します。

富士市の福祉のできごと

※年は年度を表します。

- 平成11年
- 介護保険課開設
- 身体障害者福祉タクシー利用料金助成事業開始
- 富士市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定
- ふじ生きがいプラン21計画策定
- 平成12年
- 「介護保険制度」開始
- 保育ママ事業開始
- 平成13年
- 第四次富士市総合計画開始
- 特例市に移行
- 健康ふじ21計画策定

- 平成14年
- 結婚相談所を吉原公民館より
フィランセ東館1階に移転
- ボランティアセンターがフィランセ東館3階に移転
- 「ふじおもちゃ図書館」がフィランセ東館4階に移転
- 福祉図書コーナーをフィランセ東館1階に設置
- 単親家庭の会発足
- 地区福祉推進会発足(広見)
- 介護サービス室を設置
〈富士市フィランセ東館1階に事務局移転〉
- 平成15年
- 「市民ふれあいバンク」小規模通所授産施設に移行
- 地区福祉推進会発足(吉永北)
- ガイドヘルパー養成研修を実施
- 窓口対応時間2時間延長(時差出勤制)



フィランセ東館



フィランセ東館1階
社協事務局



ガイドヘルパー養成研修

- 平成14年
- 富士市フィランセ開館
- 土曜日一日保育事業を開始
- 地域子育て支援センター「うんぱっぱ」開設
- 地域子育て支援センター「カスタネット」開設
- 富士市ファミリー・サポートセンター開設
- フィランセまつり開催
- ふじ高齢者プラン2003策定
- 要約筆記者派遣事業開始
- 平成15年
- 「ぐるん・ぱ よねのみや」開設
- 「すくすく赤ちゃん講座」「ブックスタートふじ」開始

時代と話題

- アテネオリンピック開催
■新潟県中越地震
■新紙幣発行
5千円札：樋口一葉
千円札：野口英世
- 「愛・地球博」開幕(愛知県)
■JR福知山線脱線事故
■クールビズ導入
■「障害者自立支援法」施行
- トリノ冬季オリンピック開催
■第1回ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)が開幕
■第1回東京マラソン開催
■郵政民営化
■新潟県中越沖地震が発生

- リーマンショックによるアメリカ金融危機
■北京オリンピック開催
■後期高齢者医療制度開始
■富士山ナンバー導入
- 富士山静岡空港開港
■裁判員制度開始
■民主党政権発足



富士市社会福祉協議会のあゆみ

※年は年度を表します。

- 平成16年
- 地区福祉推進会発足(富士北・大淵)
○市内全域に地区福祉推進会設立(小学校区単位)
○広報紙「お元気ですか」100号発行
○「鷹身工芸社」身体障害者小規模通所授産施設に移行
○新潟県中越地震被災地への職員、災害ボランティア
連絡会会員派遣
- 平成17年
- 災害ボランティア支援本部運営マニュアルの策定
○出前の福祉体験、福祉講話の増加
- 平成18年
- 「地域福祉活動計画評価委員会」を設置
○第二次地域福祉活動計画の開始
- 平成19年
- 富士川町社協との「合併協議会」の設置
○地区福祉推進会への補助金見直し
○市民活動支援事業助成金制度開始
○市民福祉まつり検討委員会設置
○小規模授産事業から、障害者就労支援事業に移行



新潟県中越地震への職員派遣時の
現地災害対策本部(十日町市)



富士市災害ボランティア支援本部
開設訓練



出前福祉講話 富士市内小学校において

富士市社会福祉協議会のあゆみ

※年は年度を表します。

- 平成20年
- 富士川町社協との合併調印式 4月24日
○富士川町社協との合併認可
11月1日 新富士市社会福祉協議会誕生
○障害者就労移行施設「まつぼっくり」
バイオ燃料(BDF)の販売開始
○障害児日中一時支援事業(受託)
「ほりでいクラブ」の運営
○西部地域包括支援センター(受託)の運営
○障害者就労支援施設「ふじばら作業所」の運営
○富士川デイサービス事業の運営
○富士川サテライトデイサービス事業の運営
○生きがいデイサービス
「うらかクラブ」「あったかクラブ」の運営
- 平成21年
- 地区福祉推進会発足(富士川・松野)
○週末親子ボランティア講座開催
○県社協小地域福祉教育推進事業モデル地区指定
(今泉・吉永)



富士市社協・富士川町社協合併調印式



「まつぼっくり」バイオ燃料精製事業「火入式」

富士市の福祉のできごと

※年は年度を表します。

- 平成16年
- 延長保育事業を「杉の木保育園」「厚原保育園」で開始
○土曜日一日保育事業を「広見保育園」で開始
○富士市次世代育成支援行動計画策定
○母子家庭自立支援給付金事業開始
- 平成17年
- コミュニティエフエム放送局ラジオが開局
○富士パワフル85計画策定
- 平成18年
- 富士市地域福祉計画開始
○富士市高齢者地域包括支援センター開設(富士市フィランセ2階)
○富士市福祉キャンパス発足
○市制40周年記念式典挙行
○富士市・富士川町合併協議会設置
- 平成19年
- 副市長制を開始
○市庁舎2階に授産製品販売コーナー「あいあい」を開設

富士市の福祉のできごと

※年は年度を表します。

- 平成20年
- 後期高齢者医療費制度開始
○公民館を「まちづくりセンター」に名称変更
○富士市産業交流展示場「ふじさんメッセ」を開業
○富士川町が開庁式挙行
○富士市と富士川町の合併記念式典を挙行(人口261,421人)
- 平成21年
- 富士市食育推進計画策定
○富士ハイツが開館
○市庁舎2階に障害者就労支援事業所
「Cafeアップル」を開店

時代と話題

- バンクーバー冬季オリンピック開催
■日本年金機構発足
■東北新幹線全線開通
- 東日本大震災
■FIFA女子W杯
 なでしこジャパン優勝
■地上アナログテレビ放送終了
- ロンドンオリンピック開催
■東京スカイツリー開業
■復興庁発足
- 富士山世界文化遺産登録
■NHK「あまちゃん」ブーム
■東京オリンピック2020開催決定
- 消費税8%に引き上げ
■ソチ冬季オリンピック開催
■笑っていいとも!放送終了
- 第8回ラグビーワールドカップで
 日本が南アフリカから歴史的勝利
■世界体操、日本男子が37年ぶり金
■生活困窮者自立支援法施行



富士市社会福祉協議会のあゆみ ※年は年度を表します。

- 平成22年 ○西部地域包括支援センター運営事業の廃止
○広報紙「お元気ですか」に広告掲載
- 平成23年 ○第三次地域福祉活動計画の開始
○東日本大震災被災地への職員、災害ボランティア
 連絡会会員派遣(岩手県)
○県東部地震による災害ボランティア支援本部設置
○傾聴ボランティア養成講座
○富士市生活福祉資金調査委員会の廃止
○日常生活用具貸与事業の廃止
○補助金交付団体のヒアリング実施
○生活介護事業所「吉原つくし」の設置
- 平成24年 ○コミュニティエフエム「ラジオf」で毎月1回
 「はあとふるトーク」を放送し、社協をPR
○ふれあい・いきいきサロン150カ所達成



生活介護事業所「吉原つくし」



東日本大震災被災地への職員及び
ボランティアの派遣 (岩手県山田町)

富士市の福祉のできごと ※年は年度を表します。

- 平成22年 ○富士児童相談所を県富士総合庁舎内に開設
○県東部を震源とした地震発生 富士市震度5弱
- 平成23年 ○富士市は新聞販売店と「富士市高齢者等見守り
 支援ネットワーク事業」の協定を締結
○第五次富士市総合計画を開始
○若者のためのキャリアデザイン支援室「fきゃる」を
 フィランセに開設
○富士市地域福祉計画開始
- 平成24年 ○フィランセ東館に
 「富士市就労総合支援センター」を開所

富士市社会福祉協議会のあゆみ ※年は年度を表します。

- 平成25年 ○市民活動支援事業助成金制度を市民活動団体
 「はじめの一步」助成金に名称変更
○フィランセ東館1階に「福祉相談室」を設置
○西伊豆町豪雨及び豪雪被災地(小山町)への
 職員、災害ボランティア連絡会会員派遣
○市民後見人養成講座実施
- 平成26年 ○「障害サービス室」を設置
○富士市成年後見支援センターの運営(受託)
○台風18号被災地への災害ボランティア連絡会会員派遣
 (静岡市清水区)
○ふれあい喫茶事業の撤退
○事務局係名変更(総務係・地域支援係・在宅支援係)
- 平成27年 ○障害者就労支援施設「市民ふれあいバンク」の建て替え
○法人後見初受任(1件)
○東部デイサービスセンターほほえみの家及び
 富士川サテライトデイサービス事業の廃止
○「くらし・しごと相談」窓口の開設
 (生活困窮者自立相談支援)
○福祉人材育成事業開始
○成年後見支援センターが在宅支援係より独立(一係)



市民後見人養成講座



富士市成年後見支援センター



障害者就労支援施設
「市民ふれあいバンク」開所式

富士市の福祉のできごと ※年は年度を表します。

- 平成25年 ○富士市高齢者地域包括支援センターを市庁舎内へ移転
○東部児童館開館
○富士山女子駅伝開催
- 平成26年 ○フィランセ東館に富士市成年後見支援センターを開設
○初の防災啓発イベント「ふじBousai2014」を開催
○各地区に「まちづくり協議会」が設立
○青少年センターを閉館
- 平成27年 ○富士市教育プラザを開館
○富士市若者相談窓口の開設

時代と話題

- 熊本地震
- マイナンバー制度開始
- 相模原障害者施設殺傷事件(津久井やまゆり園)
- 北海道新幹線開業
- 選挙権年齢18歳以上に
- 国民の祝日「山の日」施行

2016
(平成28年)

- 九州北部豪雨災害
- 陸上男子100m桐生祥秀選手「9秒98」マーク
- 将棋ブーム藤井聡太四段が29連勝
- 改正社会福祉法(社会福祉法人制度の大改革)

2017
(平成29年)

- 平壤冬季オリンピック開催「そだねー」が流行語に
- 北海道胆振東部地震
- 築地市場が83年の歴史に幕
- 本庶 佑がノーベル生理学・医学賞受賞
- 西日本豪雨災害

2018
(平成30年)

富士市社会福祉協議会のあゆみ

※年は年度を表します。

- 平成28年**
- 富士市富士川地域福祉センターの無償譲受
 - 障害者就労支援施設送迎サービスを開始(まつぼっくり・ひめな・ふじばら作業所)
 - 第四次地域福祉活動計画開始
 - 障害者就労支援施設「ふじばら作業所」を富士川地域福祉センター2階に移転
 - 初の市長・副市長及び市議会議長・副議長並びに文教民生委員会正副委員長との懇談会開催
 - 障害者就労支援施設「まつぼっくり」のバイオ燃料精製事業の廃止
 - 障害者就労移行支援事業所「まつぼっくり」の廃止
 - 熊本地震被災地への職員派遣
 - 健康づくりデイサービス事業(受託)開始



富士川地域福祉センター



富士川デイサービスセンター
食事を配膳するふじばら作業所の利用者さん

富士市の福祉のできごと

※年は年度を表します。

- 平成28年**
- 富士市訪問看護ステーションの廃止
 - 市立初の幼保連携型認定こども園 松野こども園を開園
 - 市制50周年記念式典を挙げる
 - 富士市地域福祉計画開始

富士市社会福祉協議会のあゆみ

※年は年度を表します。

- 平成29年**
- 結婚相談事業ハピネスFujiを結婚相談縁結び支援事業ハピネスFuji(受託)に名称を変更、内容の充実強化(場所・相談員数・開催日・システム等)
 - 県下初の市民後見人第一号が富士市で誕生
 - 訪問入浴介護事業の廃止
 - 生活支援体制整備事業(受託)開始
 - 障害者就労支援施設「鷹身工芸社」にて送迎サービスを開始
- 平成30年**
- 富士市社会福祉協議会基本理念・職員行動指針の制定
 - 市民活動団体「はじめての一步」助成金事業終了
 - 子ども食堂への補助実施
 - 各事業所ごとのBCP(事業継続計画)策定
 - 西日本豪雨被災地への職員派遣(広島県)
 - 社協モニター制度終了
 - 富士市社協法人設立50周年記念事業実行委員会及び記念誌編集委員会の設置



ハピネスFuji(結婚相談)
出会いふれあいパーティー



鷹身工芸社送迎車で帰宅する利用者さん

富士市の福祉のできごと

※年は年度を表します。

- 平成29年**
- 小規模保育事業所「みなみっこ」開設
 - ユニバーサル就労推進事業開始
 - 「ふじパワフル85計画」策定
 - 「ふじし障害者プラン」策定
- 平成30年**
- 「福祉部」を「福祉こども部」に改組
 - 小規模保育事業所「てんまっこ」開設
 - 「北西部児童館」開設
 - こども医療費助成制度改正

時代と話題

- 新国立競技場開場
- 「令和」に改元
- 新型コロナウイルス世界的大流行
- 消費税10%に引き上げ
- ラグビーワールドカップ日本ベスト8
- 東京オリンピック開催1年延期
- 自動車取得税廃止

2019
(令和元年)

2020
(令和2年)

富士市社会福祉協議会のあゆみ

※年は年度を表します。

令和元年

- 房総半島台風被災地への職員派遣(千葉県)
- 東日本台風被災地への職員派遣(長野県)
- 社協法人設立50周年記念シンボルマーク・福祉の標語の制定
- 生活介護事業所「吉原つくし」の廃止



長野市北部災害ボランティアセンターでの社協職員による被災地支援活動

令和2年

- 生活介護事業所「オリーブの丘」の設置
- 新型コロナウイルス感染防止対策のため、福祉まつりの中止を始め、各種イベントの自粛
- 緊急小口資金及び総合支援資金の特例貸付(コロナ感染の影響)
- ユニバーサル就労支援センター相談支援グループを共同事業体として受託
- 富士市社会福祉協議会法人設立50周年記念式典の開催



50周年記念「シンボルマーク」「福祉の標語」受賞者のみなさん



オリーブの丘 利用者のみなさん

富士市の福祉のできごと

※年は年度を表します。

令和元年

- 富士市子ども未来サポートプラン策定
- 第二期子ども・子育て支援事業計画策定

令和2年

- 支援機関を再編し、新たなユニバーサル就労支援センターの運営を開始
- くすの木学園にて指定管理者制度を導入

富士市社会福祉協議会歴代会長



初代会長
小 沢 鼎
任期：昭和41年11月1日～
昭和47年4月24日



五代会長
佐 野 孝
任期：平成6年5月10日～
平成18年5月9日



二代会長
鈴 木 清 一
任期：昭和47年4月25日～
昭和55年4月24日



六代会長
廣 瀬 巖
任期：平成18年5月10日～
平成24年5月9日



三代会長
岡 田 晨 正
任期：昭和55年4月25日～
平成4年4月30日



七代会長
松 本 玲 子
任期：平成24年5月10日～
平成28年5月9日



四代会長
小 川 清
任期：平成4年5月1日～
平成6年5月9日



八代会長
井 出 哲 夫
任期：平成28年5月10日～

理事

※任期：令和元年6月25日から令和3年6月定時評議員会終結の時まで

役 職	氏 名	摘 要
会 長	井 出 哲 夫	学識経験者
副会長	荻 野 克 雄	町内会連合会
//	望 月 衛	民生委員児童委員協議会
//	渡 邊 啓 視	学識経験者
//	渡 邊 泰 明	学識経験者
常務理事	鈴 木 孝 治	事務局長
理 事	熊 谷 仁	ボランティア連絡会
//	長 谷 川 文 徳	社会福祉施設
//	金 谷 弥 生	手をつなぐ育成会
//	加 藤 崧	生涯学習推進会
//	古 曳 本 市 郎	地区福祉推進会連絡会
//	柚 木 恵 美 子	学識経験者



監事

※任期：令和元年6月25日から令和3年6月定時評議員会終結の時まで

氏 名	摘 要
戸 塚 伸 久	税理士
木 戸 久	学識経験者
堀 田 久 美	学識経験者



評議員

※任期：平成29年4月1日から令和3年6月定時評議員会終結の時まで

氏 名	摘 要
松 野 俊 一	町内会連合会
渡 邊 英 樹	//
千 葉 辰 夫	//
井 出 和 雄	//
齋 藤 清 隆	//
鈴 木 良 一	//
福 田 新 二	民生委員児童委員協議会
本 多 恒 康	//
佐 藤 勝 彦	//
杉 山 富 恵	//
岡 本 由 次	//
内 野 清 三	//
遠 藤 え み 子	ボランティア連絡会
佐 々 木 孝	社会福祉施設
渡 邊 英 一 郎	医 師 会
古 郡 英 治	商工会議所
時 田 美 智 子	子ども会世話人連絡協議会
秦 野 英 夫	悠容クラブ連合会
岩 見 邦 廣	身体障害者福祉会
稲 葉 久 利	地区福祉推進会連絡会
望 月 廣 一	//
小 林 知 子	学識経験者
遠 藤 勉	N P O 協議会

評議員選任委員

※任期：平成29年3月1日から令和3年6月定時評議員会終結の時まで

氏 名	摘 要
木 戸 久	監 事
丸 茂 湛 祥	外部委員
明 石 武 彦	//
普 代 徳 子	//
神 尾 秀 彦	事務局員

旧富士川町社会福祉協議会のあゆみ・歴代会長

昭和54年	○社会福祉法人認可成立 昭和54年9月25日
昭和58年	○家庭奉仕員有料制度導入
昭和59年	○第一回ふれあい広場の開催(平成17年まで)
	○社協情報紙「ふれあい」発行開始(平成7年まで)
昭和60年	○在宅介護機具貸出事業開始
昭和61年	○「老人福祉センター」管理業務(受託)
	○社協会費(普通会費) 一世帯100円
昭和62年	○一人暮らし老人給食サービス開始
昭和63年	○赤い羽根共同募金(世帯募金) 一世帯200円
平成元年	○赤い羽根共同募金 一世帯300円
	○小規模授産所「ふじばら作業所」開所(町設置、手をつなぐ親の会運営)
平成2年	○福祉ボランティアのまちづくり事業(ボラントピア事業)指定(厚生省)
平成3年	○地域福祉推進支部(8支部制)発足、福祉委員制度開始
	○小学生(5~6年生)福祉体験開始
	○社協会費 一世帯300円
平成4年	○「地域福祉センター」完成に伴い、事務所を老人福祉センター内から移転
	○マイクロバス購入
	○老人デイサービス事業(受託)
	○「社協だより」創刊号発行
平成5年	○毎日型配食サービス開始
	○ボランティア連絡会発足
	○中学生福祉学習会(毎月型)開始
	○社協会費 一世帯500円
平成6年	○市区町村ボランティアセンター活動事業指定(厚生省)
	○リフトバス運行事業開始
	○在宅介護支援センター運営事業(受託)
平成7年	○第一次地域福祉活動計画開始
平成8年	○高校生ボランティアワークキャンプ開始
平成9年	○ふれあいのまちづくり事業指定(厚生省)、心配ごと相談所設置
	○「小地域福祉セミナー」開始(平成13年まで)
平成10年	○富士川勤労者総合センター「サンクレア富士川」運営(受託)(平成17年まで)
	○移送サービス事業開始
	○地域福祉型「セキュリティシステム」設置、「セキュリティチーム」編成開始



初代会長 金 指 恭 三
昭和54年9月～昭和57年3月



二代会長 篠 田 彌 天
昭和57年4月～昭和60年3月



三代会長 望 月 計 夫
昭和60年4月～昭和63年3月



四代会長 太 田 義 雄
昭和63年4月～平成9年3月

平成11年	○社協会費 一世帯800円
平成12年	○ふれあいいきいきサロン事業開始
	○第二次地域福祉活動計画開始
	○訪問介護・訪問入浴介護・通所介護(デイサービス)事業が介護保険制度に移行
	○居宅介護支援事業(介護保険制度)開始、介護予防・生活支援事業(受託)
平成13年	○介護認定訪問調査事業(受託)
	○介護ボランティア講座開催
	○全国社会福祉大会にて厚生労働大臣表彰受賞
	○法人化20周年・地域福祉推進支部発足10周年記念誌発行
平成14年	○「地域福祉を考える集い」開始(平成16年まで)
	○福祉教育実践校指定、福祉教育連絡会開始
	○法人ウェブサイト開設
平成15年	○災害ボランティアコーディネーター養成講座開催
平成16年	○デイサービス土曜日開所を開始、土曜日及び夕方配食サービス開始
	○福祉レクリエーション講座開催
平成17年	○第三次地域福祉活動計画開始
	○「地域福祉実践セミナー」開始
平成18年	○地域福祉センター指定管理(受託)
	○地域包括支援センター運営(受託)
	○サテライトデイサービス「野の花」開所
	○自立支援型デイサービス開始
	○障害児日常生活支援事業「ほりでいクラブ」開始
平成19年	○障害児(者)移動支援事業開始
	○介護予防普及啓発事業(受託)
	○富士市社会福祉協議会との合併協議会設置
	○第二サテライトデイサービス「ふじかわ」開所
平成20年	○ふじばら作業所運営主体が手をつなぐ育成会から移管
	○ふじばら作業所が小規模授産所から「障害者就労支援事業」制度に移行
	○富士市社会福祉協議会との合併により富士川町社会福祉協議会が解散
	○合併調印式:平成20年4月24日
	○合併:平成20年11月1日
※表記は年度	



五代会長 小 林 嘉 夫
平成9年4月～平成10年6月



六代会長 榊 原 茂 次
平成10年7月～平成19年3月



七代会長 谷 一 郎
平成19年4月～平成20年10月

事業紹介

50年の間、人々の生活や価値観が変わっていきました。社協は、その時、その時に応じて、市民の皆さんに寄り添い、地道ではありますが、着実に事業展開をしてきました。貸付・援護等の救貧対策にはじまり、家庭奉仕員や巡回入浴サービス等の在宅福祉サービス、その後「地域福祉」の重要性が叫ばれ、小学校区を単位に組織した「地区福祉推進会」を中心に地域福祉を推進してきました。

また、平成20年の旧富士川町社協との合併や市からの委託事業の増により事業規模は年々拡大してきました。

ここでは、脈々と続く社協事業の一部を紹介します。

しらせる・・・

広報紙「お元気ですか」

昭和53年8月に社協広報紙「ふじ社協だより」第1号を発行しました。年1回決算後に職員の手作りで作成発行し、第3号は一面に写真も掲載し、少しでも見やすいよう工夫をしました。発行回数も、年1回から昭和57年には2回、昭和58年には3回、昭和60年には4回となりました。さらに、見やすい広報紙にするため、平成13年より紙面作りを業者委託に切り替え、現在に至っています。また、最近では本会の広報啓発の強化をすべく、ウェブサイトや、コミュニティーエフエムラジオの活用などにより、社協のPRに努めています。



社協だより
第1号

社協だより
第100号

当時の第一号
担当職員

石川一夫さん
(前 常務理事)



私が社協に入職した当時は、広報紙がなく第一号発行に関わらせていただきました。その当時は、パソコンなどない時代で、タイプライターで一文字ずつ文字を拾い紙面を作っていました。その作業の時の、ガチャ・ピシという音を今でも覚えています。

市民福祉まつり

国際障害者年(昭和56年)を契機に企画された最大の福祉啓発イベントです。第2回目から、市主催から実行委員会主催となり、社協が事務局となって開催しています。当初このイベントにおけるテント・机・いすの調達・設営及び看板の設置等は、すべて職員の手作りで行い、毎晩暗くなるまで準備に追われていました。平成元年からは、テント・机・いす等が業者発注となり、準備もスムーズに進みました。また、開催場所は、市役所北側駐車場に始まり、平成3年から中央公園に、平成13年から中央公園西側イベント広場へと移り現在に至っています。天候にも恵まれ(39回開催中、1回台風で中止)、来場者数は3万人を超えるほど賑やかなイベントとなっています。

今年の(令和2年)まつりは、コロナ感染防止のため中止となりました。



市民福祉まつり



まつり会場でのアイマスク体験

元 市民福祉まつり
企画委員長

八木 敬さん



このまつりは、国際障害者年と合わせて「ノーマライゼーション・バリアフリー・共生社会」をうたいあげ、福祉への理解をすすめることを理念に取り組みました。時は流れ、改めて「共生社会」を作り直す取り組みが必要と考えます。人間が「生きる」「幸福」とは何かを考える機会(場所)として、このまつりを継続していってほしいと願っています。

そうだん・・・

心配ごと相談

法人化当初(昭和45年)より、相談事業(心配ごと相談)に取り組み、民生委員を相談員に委嘱し、市役所等関係機関と共に相談支援を行ってきたのが始まりです。その後、相談事業の充実強化が求められ、専任の相談員(職員1名)を配置し、窓口相談のみならず、電話相談、出張相談等を実施し、総合的な相談に取り組んできました。平成に入り、富士市就労総合支援センターが開設されたことに伴い、市から「福祉相談室」事業を受託。令和2年度からは、ユニバーサル就労支援センターの改編があり、市の委託事業から社協の自主事業に改めて位置づけ、フィランセ1階事務局内で相談を受け付けています。



心配ごと相談員による電話相談

元 心配ごと相談員

遠藤喜義さん

(元 天間地区民生委員
児童委員協議会会長)



心配ごと相談員に拝命された当時は、何をすれば良いのかわかりませんでした。最初の相談は、緊張感のある中、お話を聞くということに重きを置き対応しました。最初は暗い表情だった来談者の表情が、帰る時は、明るい表情になっていたことが、今でも忘れられません。その時、心配ごと相談の役割って、こういうことなんだと、意を強くしたことを覚えています。

結婚相談(結婚相談・縁結び支援事業ハピネスFuji)

昭和49年から、今はなき吉原市民会館(御幸町の交番前)を会場に、民生委員を相談員に委嘱しスタートしました。昭和57年より開催場所を吉原公民館(現 吉原まちづくりセンター)2階和室に変更し、開催してきました。平成14年にフィランセが開館したことにより、吉原公民館より、フィランセ東館1階社協事務局隣に移転すると共に、民生委員による相談員委嘱を止め、専任の相談員を雇用し、相談体制の変更を行いました。また、平成29年度より本事業は、市からの受託事業となり、相談場所もフィランセ東館4階に移動し、相談員の増員、開催日の増、市町村独自のICT(情報通信技術)として、全国初となるマッチングシステムの導入等、事業の充実強化を図りました。



ハピネスFuji相談風景

元 結婚相談員

中西武子さん

(元 富士市民生委員
児童委員協議会会長)



結婚相談員をお引き受けしてから、だんだんとご時世が変わり、ご近所の縁談が減少し、個人同士の繋がりや縁探しに傾向が強まってきました。その当時は、吉原公民館(現 まちづくりセンター)の2階和室で相談を受け、別室で引き合わせ(お見合い)を行いました。会員さんと連絡がつかない時は、夜に自宅から連絡したことを今でも思い出します。

ボランティア・・・

ボランティアセンターの運営

昭和55年9月に中央町(現 就労支援施設吉原つくし東側)に、ボランティアセンター「ほのぼのの広場」が設置され、専任の職員1名を配置し、ボランティア活動推進の拠点として活動を展開しました。その後、昭和63年に富士市保健婦人センター3階に、平成14年にフィランセ東館3階に移転し、ボランティア活動の推進を図っています。ボランティア活動の推進を図る上で、最も深く関わりのある組織として、「ボランティア連絡会」がありますが、個のグループ活動は元より、連絡会として市や社協等のイベントへの協力等、富士市のボランティア活動の中核をなしています。その連絡会は、今年で40周年を迎えます。



昭和59年12月25日富士ニュースより
当時のボランティアセンターでのもちつき大会

初代 富士市ボランティア連絡会会長

稲葉正子さん



昔は、ボランティア活動をいろんな人たちに知ってもらいたいという思いで、活動をしてきました。そういう意味では、ボランティア連絡会の会長になったことで、さらにボランティアに関する情報の発信ができて良かったと思います。各地での研修や海外研修等でもいろんな情報を得られたことも発信の源となっていたことを痛感します。今までの活動ができたことは、主人の理解と協力があつたからこそ感謝しています。



回想法ボランティア講座

移送サービス事業

平成7年からスタートしたこの事業は、ボランティアグループ「男性自立サロン」(現 自立サロン)の方々の熱い想いにより、事業化を図ったといっても過言ではありません。その当時は、男性がボランティアをしたいと思っても中々マッチする活動が少なく、この事業により、男性のボランティア活動の促進に繋がりました。



車いす利用者をリフト付き車両に乗せるボランティア

移送ボランティア

小山章夫さん

(元 富士市ボランティア
連絡会会長)



この事業は、ボランティアと社協、そして行政の考えがうまくマッチした事業として発展していきました。長い間、移送ボランティアをしていて一番嬉しかったのは、利用者の皆さんの喜びの声と感謝の気持ちです。今後は、時代のニーズに合わせ、改良検討を加え、さらにより良いサービスとして、継続していってほしいと思います。

ちいきで・・・

地区福祉推進会

昭和63年、国からの指定事業として「福祉のまちづくり事業」(ボランティア事業)の指定を受け、それを契機に小地域福祉の推進が求められました。全国的には、小地域福祉の推進母体として、「地区社会福祉協議会」(地区社協)を設置している社協が多い中、富士市においては、社協の下部組織でなく、住民主体の組織として位置付け、小学校区単位に「地区福祉推進会」という名称で組織し、当該地域の福祉需要に応じた地域福祉活動を推進しています。社協の進める地域共生社会づくりに欠くことのできない組織です。

また、26地区で組織している「地区福祉推進会連絡会」において、資質向上を図る目的で各種研修会等が開催されています。

富士市地区福祉推進会連絡会会長

古曳本市郎さん

(富士見台地区福祉推進会会長)



富士見台地区福祉推進会は、市内で二番目に発足し、「ぼらんていあスクール」を始め、「ふれあい交流会」などを開催し、地域福祉の推進に取り組んでいます。しかしながら、今後の福祉を考えると、どここの地区の課題でもある福祉(活動)人材の確保が重要であると思います。それには、地域内での各種団体事業のスリム化・統合と、個々に特技(専門の技術者)を持っている方々を掘り起こし、活動の場を提供するなどして人材の確保に努めることで、安定した事業推進ができるのではないかと感じています。

富士見台ぼらんていあスクール参加者

吉原北中2年生

後藤泰吾さん



僕は、小学校1年生から「ぼらんていあスクール」に参加していますが、最初は、体を動かすのが大変そうなお年寄りを見て、何かできることはないかなと思いました。一緒に輪投げなどで交流する中で、お年寄りの優しさにふれ、いつも僕のほうが温かい気持ちにさせられました。今では、将来お年寄りを助けられる職業に就きたいと思っています。



福祉マップづくりの様子



見守りのためにお弁当を届けている中学生



富士見台ぼらんていあスクールでお年寄りと一緒にカルタを楽しむ小学生

さわやかコール

国からの指定事業「ボランティア事業」を契機に、一人暮らし高齢者等の安否確認を目的に、民間事業者と委託契約をし、乳酸菌飲料(ヤクルト)をお届けしながら、ひと声かける事業として実施(平成元年6月スタート)。安否の確認ができない場合は、担当民生委員等と連携し対応しています。



利用者さんに飲料を手渡すヤクルトレディ

中央静岡ヤクルト販売(株)
宅配事業部 宅配三課
課長



井出明美さん

ヤクルトを届けること以上に、お年寄りとのコミュニケーションを大事にしています。一言二言の会話ですが、お年寄りにとっては楽しみのひとつとなっており、私たちにとっても、やりがいとなっています。手から手へ配達するサービスが減っている現代、このような「ぬくもりのある」事業は、今後も続けていってほしいと願います。

ふれあい・いきいきサロン

平成12年にスタートしたこの事業は、一人暮らし高齢者等の孤独感を和らげると共に、介護のお世話にならないよう、いつまでも元気で過ごしていくため、おしゃべり・歌・創作活動などを行い、楽しみの居場所として開催しています。主催者は、地域のボランティア(サロンボランティア)。利用者は、月に1～2回程度の開催を心待ちにしています。



みんなで歌を楽しむ「サロンわが家」の利用者さん

サロンボランティア
「サロンわが家」



田中和枝さん

サロンわが家は、「誰でもここに来て楽しんでもらえたら」との気持ちから平成12年7月に開所しました。ここに集うみなさんは、それぞれが参加者でありながらボランティアでもある…。そんな助け合いの気持ちで体操、クイズ、手芸や歌など、その日のイベントを楽しんでいます。月3回のサロンでみんなが主役となり、元気に笑顔で過ごしています。みなさんがこのサロンを生きがいに思ってくれることが私の生きがいになっています。

しせつ・・・

障害者就労支援施設

社協が運営している施設は、障害者就労継続支援B型事業所9か所、生活介護事業所1か所です。本事業の前身は、「小規模授産所」として富士市心身障害児(者)を守る会(現 NPO 法人富士市手をつなぐ育成会)が運営主体となって、昭和53年の清流作業所(中里)、あすなろ作業所(原田)の設置に始まり、その後、続々と設置が進んでいきました。

平成10年に富士市心身障害児(者)を守る会から、社協に運営主体が変更され、その後平成19年障害者自立支援法の改正により、運営基盤の強化が図られ、現在の「障害者就労支援施設」となりました。今では、利用者の皆さんの送迎サービスにも取り組んでいます。

NPO法人
富士市手をつなぐ育成会
理事長

金谷弥生さん



昔は、障がいを持つ子の親として、必死で授産所(現 障害者就労支援施設)の運営に関わって頑張ってきました。時は流れ、利用者・職員の人数が増える中、運営主体が、親の会(現 手をつなぐ育成会)から社協に移り、施設の運営強化が図られたと安心したものです。また、念願がありました送迎サービスに取り組んでいただき、感謝しております。

●市民ふれあいバンクの運営(B型事業所9ヶ所のうちの1ヶ所を紹介します。)

昭和58年7月に誕生した市民ふれあいバンクは、福祉とリサイクルをドッキングさせた、その当時は、県内でもユニークな存在でした。市民から提供される自転車や衣類、家具、電化製品など様々な不要品を修理したり、磨いたりして再生し、それを販売していました。特に自転車の販売については、市民からは好評で一人で2台、3台と購入した方もいたくらいです。その自転車販売も、リサイクルショップの台頭や製造物責任法などにより、平成22年3月で終了しました。それに変わるべく「廃油を使った手作り石鹸」などを生み出し、本施設は平成29年に建て替え、利用者の皆さんと共に頑張っています。

元 市民ふれあいバンク
所長

萩本義道さん



教職員を退職後、平成9年4月に小規模授産所(現 障害者就労支援施設)市民ふれあいバンクに関わることとなりました。今まで障害のある人たちとの関りが薄かったが、日常の作業・研修・旅行・イベントを通じて、日々触れ合う中で、皆の笑顔を見ることが励みとなり喜びとなり、毎日が充実していました。これからも、利用者の皆さんの生きがいの場として笑顔いっぱいの施設運営を目指して頑張っていってほしいですね。



ビーズ飾り製品を熱心に作る利用者さん



当時の市民ふれあいバンクでの自転車整備の様子

かいご・・・

介護事業

昭和50年代は、在宅福祉サービスの走り、家庭奉仕員(現 ホームヘルパー)と言われる人たちが、高齢者や障害児者の身の回りのお世話をしていました。また、巡回入浴車といわれる車に浴槽と、お湯を積み込み、対象者宅の家の中へ浴槽を持ち込み、入浴を行い、大変喜ばれていました。その当時は、家庭奉仕員や巡回入浴車の派遣については、市から委託を受けられるのは、社協に限られており、その需要の伸びと共に年々家庭奉仕員を増員し、在宅福祉サービスの充実強化を図ってきました。

平成11年には、東部市民プラザ内に東部デイサービスセンター「ほほえみの家」を設置し、平成20年には旧富士川町との合併により、富士川地域福祉センター内で富士川デイサービスセンターの運営を行うなど、年々、介護事業は拡大していきました。

一方で事業の整理統合も進め、平成27年度をもって、東部デイサービスセンター「ほほえみの家」および、富士川サテライトデイサービスを、平成29年度には訪問入浴事業を廃止。現在では富士川地域福祉センターを核とした介護事業を推進しています。



当時のデイサービスセンターほほえみの家(東部市民プラザ内)



富士川デイサービスにて、理学療法士の指導で機能回復訓練に
はげむ利用者さん

元 巡回入浴サービス
事業 看護師

大島喜美子さん



昭和50年代は、ねたきり高齢者がお風呂に入るといことは、考えられない時代でした。ましてや、自宅の居室に浴槽を持ち込み、入浴できるので、多くの方たちが大変心待ちにしていました。ただ、その当時の簡易浴槽は、一体式なので非常に重く、女性二人では大変な作業だったことを思い出します。

私は看護師として採用されましたが、福祉にしても医療にしても、「人の役に立つ仕事」に就けたことに感謝しています。

ボランティアグループ
どんぐりの会 代表

大久保 光代さん



私たちは、「利用者の皆さんと共に楽しむ」というやり方を取り入れて活動をしています。今までに、失敗もありましたが、相談に乗ってくれる仲間の助言と理解ある家族、また私たちを温かく受け入れてくださる施設側のスタッフの皆さんのおかげで、今日まで来られたことと思います。これからも多くの人たちに支えられていることに感謝し、富士川デイサービスセンターを始め、各福祉施設において、ボランティア活動に励んでいきたいと思っています。

いきいきと・・・

社会福祉センター(4館)の運営

平成10年に社協が旧富士市社会福祉事業協会を統合し、社会福祉センターを運営(受託)することとなりました。この施設は、高齢者や障害者、児童等がいつでも元気に生き生きとした生活を送るための施設として運営しています。中でも人気なのは、お風呂とカラオケですが、最近では健康ブームにより卓球台の設置や、健康体操などを行い、健康をテーマにしたメニューの充実に努めています。



広見荘卓球場で汗を流す利用者のみなさん

広見荘 利用者

惟村亜栄子さん



朝起きて、広見荘に行くことを考えただけでも、ウキウキしてきます。今では、毎日のように広見荘に出かけ、苦手だった歌も歌えるようになり、踊りも大好きで「安来節」を踊れるようにもなりました。今、夢中になっているのは卓球です。広見荘は、私にとって、いろんな方々との交流もできて、最高の生きがいの場となっています。

生きがいデイサービス・健康づくりデイサービス

市内の65歳以上の方で、介護認定を受けていない方あるいは、要支援1・2の方で、基本チェックリスト等から判断し、対象となる方に対して、介護予防体操や運動・創作活動・趣味活動などの通所型サービスを行っています。(広見荘・鷹岡市民プラザ・富士川地域福祉センター内でを行っています。)

なお、令和2年度より、田子浦荘において実施してきました「元気クラブ」を富士川地域福祉センター内の「うららかクラブ」に統合し、事業を行っています。



「ペタボード」を楽しむ利用者のみなさん

生きがいデイサービス
利用者

大竹延子さん



友達に誘われて、このクラブに通い始めて8年になります。昔のように、井戸端会議のような機会もなくなってしまったので、ここに来ると、いろんな方たちと交流ができるので、楽しい。今日は、ペタボードで汗を流しましたが、手芸や折り紙の日も楽しいです。とにかく生きがいデイサービスを毎週楽しみにしています。

きばん・・・

職員体制

昭和45年に社会福祉法人格を取得し、専任の職員3名(事務局長+職員2名)が配置され、市役所2階福祉事務所に事務局を設置し、スタートしました。昭和47年に、市から家庭奉仕員派遣事業(現 ホームヘルパー)を受託し、家庭奉仕員が6名採用されました。その後、事務局職員は、5～6年に1人程度の増員がなされ、介護関係職員も年々増員していきました。平成に入り、障害者就労支援施設の運営、社会福祉センターの運営、さらには、旧富士川町社会福祉協議会との合併や、受託事業の増により職員が増加し、今では社協職員総勢で、210名余(有期雇用含む)の大所帯となりました。

発足当時の職員

渡邊幸恵さん



入職当時は私を含め、もう一人の女性と事務局長の三人で仕事に従事していました。ほかに家庭奉仕員と言われる人たちが、数人一緒にいました。私は、経理を主に担当し、法外援護や小口資金貸付なども行っていました。当時の思い出としては、印刷物はガリ版と青焼き印刷で大変苦労したこと、「ボランティア」という言葉が浸透しておらず、自らも一生懸命勉強したことを思い出します。

自主財源

社協の自主財源は、会費、赤い羽根共同募金、寄附金等ですが、発足当時は社協の知名度がなく協力を得るのに大変苦労したと聞いています。その内、会費と赤い羽根共同募金については、町内会、民生委員児童委員協議会及び福祉施設・団体のご協力をいただき、財源を確保しました。なお、赤い羽根共同募金運動の推進母体は、「富士市共同募金委員会」という組織で、社会福祉協議会が兼務しています。



赤い羽根街頭募金

前 富士市民生委員
児童委員協議会会長

三宅幸三さん



社協会費や赤い羽根共同募金に関しては、普段から地域の方々と顔の見える関係になっていたの、比較的協力が得られやすかった。きめ細やかな福祉事業を進めている民間団体である社協にとって、安定した自主財源の確保は大変重要なことであり、課題でもある。

社会環境・価値観の変遷等を踏まえ、その時代に合った財源確保の方法を検討し、将来に渡り安定した収入源となるよう願っています。

役員体制の強化

平成29年に社会福祉法の大改正があり、経営組織のガバナンス強化や財務規律の強化・事業運営の透明性などの改革が示されたことから、役員体制の見直しを行い、役員15名(理事12名、監事3名)、評議員23名、評議員選任委員5名の体制で経営しています。

元 常務理事

望月健一さん



少子高齢社会において、社協が住民にとって「見える社協」となるためには、下請け事業ばかりでなく、住民の要望に沿った社協本来の自主事業を進めることが重要だと思います。

今後、さらなる役職員体制及び自主性の強化を図り、民間福祉団体としての柔軟性を生かした地域福祉事業を推進して欲しいと願っています。

これから・・・

人生100年時代。次に紹介する事業は未来に向かって市民一人ひとりが、安心して暮らしていくためには、欠くことのできない事業であり、今後ますます充実強化を図っていかねばならない事業と考えています。

日常生活自立支援事業

高齢社会となり、認知症を患いながら在宅で生活している人が増えています。

また知的・精神障害の方で判断能力が十分でない人の地域生活に寄り添う事業として、生活に必要な生活費のお届け・医療費等の支払い・各種福祉サービスの契約に寄り添う支援をします。このような方々の金銭管理や権利を守ることで、いつまでも住みなれた地域で暮らしていけるようサポートしていきます。



日常生活自立支援事業パンフレット

成年後見支援センターの運営

判断能力が低下し「日常生活自立支援事業」では対応が困難となった方が利用対象となるのが「成年後見制度」です。当センターでは、成年後見制度が必要になった方へ情報提供を行い、家庭裁判所や行政、各種関係機関と連携し申立の支援や後見人への支援を行っています。

また、社協が後見人となる「法人後見」に積極的に取り組み、「市民後見人」の養成と活動支援を行うことで要支援者の権利や財産を守り、各種契約を行い生活に寄り添うサポートをしています。



成年後見制度の市民向け講演会

県下第一号
市民後見人

小泉美津江さん



若い時から、お年寄りの面倒を見るのが好きで、民生委員の委嘱を受け、さらに老人福祉に関わりを持つようになりました。そんな時、市民後見人養成講座を受講し、講座終了後、まもなくして市民後見人に選任され、社協や専門家の皆さんに支えられ後見活動を行っています。私は、いつの時も利用者本人に寄り添うことを信念とし、後見活動を続けていきたいと思っています。

福祉人材育成事業

2025年問題を踏まえ、福祉人材の確保は必要不可欠かつ、急務であります。そのため、市内の福祉関係機関及び企業等にご協力をいただき、実行委員会を組織し、人材の発掘・育成・確保に繋げるための研修会・講演会等を開催しています。



福祉人材育成事業研修会

生活支援体制整備事業

平成29年度に市から受託した事業で、国が「我が事・丸ごと」の理念をもとに進める地域共生社会づくりの具現化の一つです。高齢者等の在宅生活を支えるため、ボランティア、NPO、民間企業などによる重層的な生活支援、介護予防サービスが提供できる体制整備とネットワーク化を進めます。



体制イメージ図

ユニバーサル就労支援センター相談支援グループの運営

平成26年度から受託していた生活困窮者自立支援事業（くらし・しごと相談窓口）を再編し、令和2年度より、株式会社東海道シグマと共同事業体を組み、ユニバーサル就労支援センター相談支援グループの運営を市から受託しています。

生活のこと・仕事のことで悩みを抱えた、すべての富士市民が対象です。働きたいのに働けずにいる、すべての人が働けるように、支援を行います。

既存のサービス、関係機関と連携しながらすべての問題をワンストップで支援します。



生活困窮者相談

30年余続いた平成が終わり、令和となり新たな時代における福祉の姿については、富士市社会福祉協議会地域福祉活動計画の基本理念である「だれもが住みなれた地域で、いつまでも安心して暮らすことのできる福祉のまちづくり」の言葉のとおり、高齢者・障がい者・児童などの世代や背景の異なるすべての人が、生きがいを感じながら共に暮らし、支えあうことのできる「地域共生社会」を実現させることです。

これからも、社協は、地域住民の声に柔軟に対応する民間組織として、地域住民の皆さんを始め、行政・関係諸団体の方々と連携を密にし、地域福祉を推進してまいります。



私たちの50の想い

50人の社協職員から、10年後、20年後の社協に向けての想いを聞いてみました…。

自らが、ふだんの
くらしの中から、
「しあわせ」を実感し
実践していくこと。

総務係 稲岡宏昭

多くの愛をお届けで
きるよう常に温かで
笑顔溢れる対応を
心掛けたい。

地域支援係 深澤由理

地域住民の皆様と
の関わりを大切にし
て、誠意のある対応
を常に心掛けたい。

総務係 上杉洋平

障害や車いすに乗っ
ていることを上手く活
用して社協に貢献でき
ればと思います。

総務係 網敷光紗

笑顔とまごころ
を持って地域の
みなさんと共に
活動すること。

地域支援係
渡邊美保

地域住民の目線に立
ち、ニーズを的確にと
らえ、協働できる良好
な関係を築く。

地域支援係 鈴木美晴

地域での暮らしを支
援する福祉サービス
を整備し、地域住民と
ボランティアを繋げる。

地域支援係 高野あおい

地域やボランティアの皆さ
んの意志や想いを理解し
ようとする努力を続ける。

地域支援係 渡邊義高

実践や研修で得た知
識は常にブラッシュ
アップし、知識を知恵に
換えて相談者に伝える。

在宅支援係 中野千晶

一人の困り事を地域の
困り事として地域と共に
受け止め、共に考え、取
り組む姿勢を保つ。

在宅支援係 丸山陽一

困りごとと一緒に考え、
一人ひとりに寄り添っ
た手助けが出来る相
談窓口でありたい。

在宅支援係 横山沙紀

相談される方の立
場にたってお話を
伺い、適切なサービ
スへ速やかにつな
げたい。

在宅支援係 藤畑浩輝



相談に至るまでの背景をしっ
かり理解し、今できるベストで
対応し続けていきたい。

在宅支援係 鈴木昌美

良い所を見つける事が
できる目と余裕を持ち心
に寄り添う支援をする。

特定相談支援 田中理香

常に笑顔でいること。
そしてモチベーション
をあげられるように支
援していくことです。

ふじひろみ 木ノ内優子

まずは本人を受け止め
ること。必要とする人に
制度が繋がり、安心した
生活へと心を配る。

在宅支援係 丸山佳代子

その人の思いに耳を傾
け、不安に寄り添い、次の
一步を一緒に考えていく。

成年後見支援センター
城市実聖

「今日も楽しかった」と
笑って一日が終わるよう
に、いつも嬉しい言葉を
伝えよう。

特定相談支援
松田敏子

利用者の「できる」
を見つけ、伸ばし、
やりがいにつなげ
ていく。

鷹身工芸社
小林典子

「寄り添う」「支える」
「そのまま理解する」
相手の思いをしっかり
受け止めます。

ひめな 鈴木和子

一人ひとりの気持ちを大
切にし、良い関係を築き
安心して過ごせる場を
作るようつとめます。

ひめな 十倍香織

利用者さんが毎日
穏やかに過ごせる
よう、明るく元気に
接していきます。

市民ふれあいバンク
八木あすか

利用者さんの思いを耳と
目と心で聴いて寄り添い
チームで支えていきたい。

市民ふれあいバンク 永川明代

誰にでもある想い
や願いと向き合い
「したい」をサポート
し拘わりを大事に笑
顔で接したい。

鷹身工芸社
鈴木文子

明るい挨拶と利用
者一人ひとりに寄り
添い個性を尊重し
た細やかな支援を
心掛けること。

ふじばら作業所
福島智子



私たちの50の想い

毎日来所するのが楽しいと感じるように、声かけや余暇活動など提案を行っています。

オリーブの丘 高橋優介

ゆったり・楽しく・自分らしく過ごす事で、明日も利用したいと思ってもらえる支援。

オリーブの丘 木村千晴

主役は利用者さん。自由な発想で自分のやり方にこだわらないことが、私のできること。

まつぼっくり 山中佳代子

いつでも利用者の気持ちに寄り添えるように心の感度を良くし常に前向きな姿勢でいる。

まつぼっくり 松原政世

地域社会の一員として共に生き、共に感じ、そして共に成長する。

ふじばら作業所 永田知恵

利用者さんの声に耳を傾け思いを感じとり過ごしやすい環境作りを心掛けていきます。

ふれあいショップあゆみ 本多香織

利用者さんの得意な部分に注目し、意欲の向上に繋がられる支援を心がけていきます。

ふれあいショップあゆみ 秋山千晴

御本人の希望や思いを受け止め、人との関わりの中で実現に向けて支援を行っています。

ふじばら作業所 富山正代

利用者が笑顔で元気に通所し、自信と喜びをもてる仕事が増えるよう支援していきます。

竹の子 山本富士美

利用者の個々の想いを受け入れ、心の拠り所となる事業所を築けるよう努力したいです。

竹の子 内藤美和子

笑顔・優しさだけは忘れず、人と人の関わりを深め、安心して過ごせる場を作る。

吉原つくし 渡邊千鶴

物作りを通して信頼関係を築き出来上がった事への達成感を共に喜ぶ。

吉原つくし 深谷千恵子

常に笑顔で・・・人としての思いやりを持った姿勢でその人との信頼関係を築いていくこと。

富士川デイサービスセンター 深澤仁美

相手が何を求めているか、気づき行動にする事でお互いハッピーになる。人は心と心。

富士川デイサービスセンター 小川翔平

穏やかな心と元気な身体を心がけ、ご利用者様と目と目を合わせて話していきます。

居宅介護支援 山本睦喜

ありがとう
言える言われる
心もち 大事にしたい
仕事の基本

介護総務 鶴橋雅志

介護とは高齢者の夢をかなえる仕事。その夢を実現する為に寄り添い心からサービスを!!

富士川デイサービスセンター 川添和江

職員間の連携、利用者様の様々なニーズに的確に応え、最善のサービスを提供すること。

富士川デイサービスセンター 渡邊晴菜

出会いに感謝、
ありがとうと言ってもらえる様に、一つ一つ丁寧に一生懸命頑張ります。

居宅介護支援 木下由佳

「ありがとう」は人間関係を繋ぐ言葉です。利用者様から信頼される支援をしたいです。

訪問介護 藤田雅世

利用者様と信頼関係を築きその人らしい生活ができ有り難うと言って貰える支援をしたい。

訪問介護 出雲淳子

皆さんが笑顔で楽しく過ごせるような環境づくりとサービス・声かけに努めていきます。

田子浦荘 小泉和代

社会福祉センターを誰もが気軽に来所し、地域の皆様の拠り所となるようにしていきたい。

東部市民プラザ 堀内ちづる

人々が集う場として時に友達や娘になり笑顔を絶やさず、楽しい場を提供します。

鷹岡市民プラザ 加藤幾代

挨拶は先に・・・、
笑顔で誰にでも接するように心掛けたいです。

広見荘 大石八重美



歴代常務理事・事務局長

年度	常務理事	事務局長
昭和45	荻野重雄	後藤忠五
46	//	//
47	関政雄	//
48	//	//
49	望月雅己	//
50	//	//
51	//	//
52	矢部寿一	//
53	//	//
54	後藤忠五	加藤邦利
55	(空席)	//
56	(空席)	望月雅己
57	望月雅己	//
58	//	//
59	//	//
60	//	//
61	横山光雄	鈴木實
62	//	//
63	//	富士原輝昌
平成元	//	//
2	井出泰正	井出泰正
3	//	//
4	//	//
5	渡會民治	渡會民治
6	//	//
7	//	//

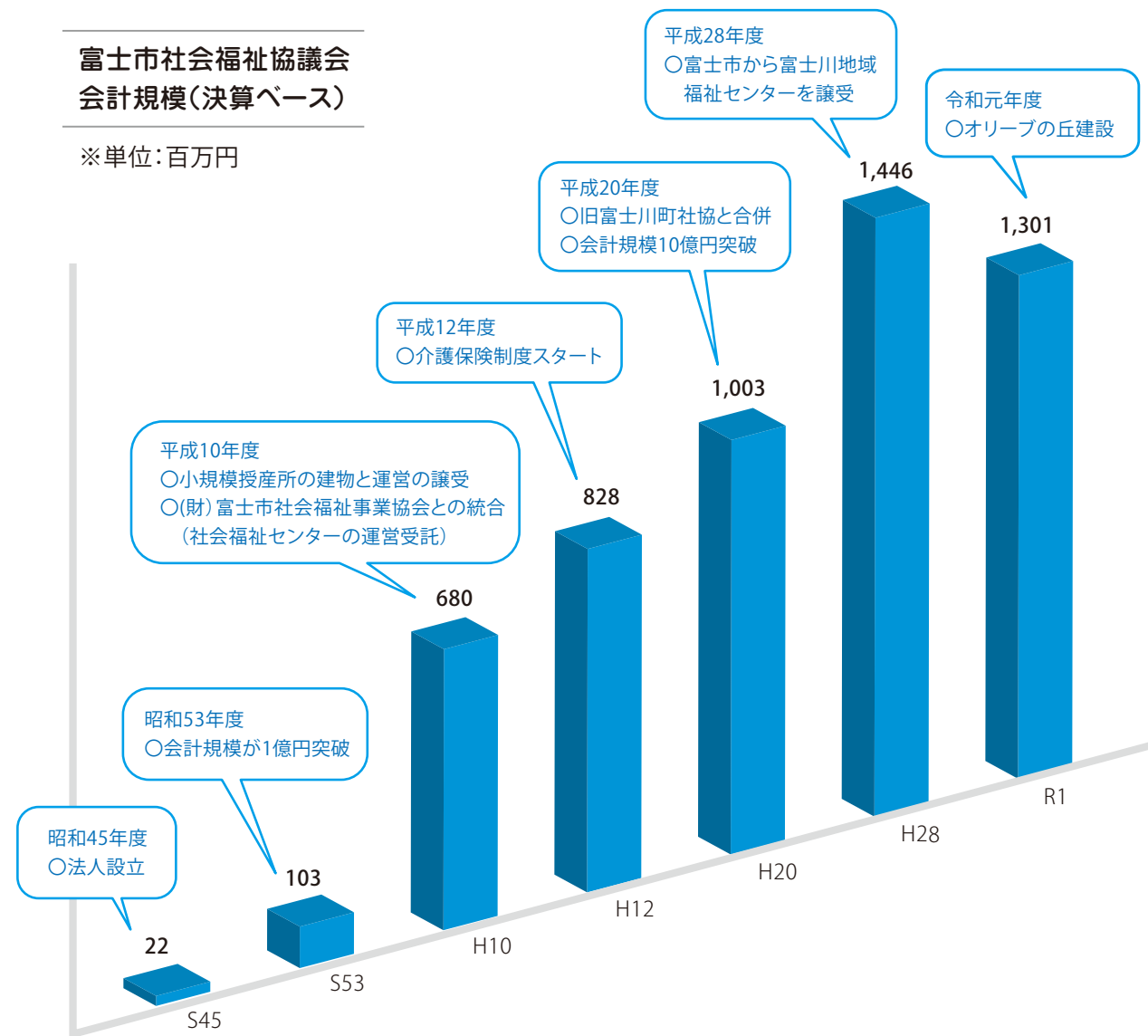
年度	常務理事	事務局長
平成8	遠藤幸	遠藤幸
9	小林順資	小林順資
10	//	//
11	//	//
12	//	渡邊孝嗣
13	//	//
14	望月健一	//
15	(空席)	//
16	渡邊孝嗣	//
17	//	//
18	//	//
19	//	//
20	//	石川一夫
21	木戸久	//
22	//	//
23	//	//
24	石川一夫	//
25	//	鶴橋雅志
26	//	近藤勝彦
27	//	//
28	//	鈴木孝治
29	//	//
30	鈴木孝治	//
令和元	//	//
令和2	//	//

会計規模・50年の推移

昭和45年度に2千万円超の規模でスタートした本会は、その後の事業拡大に伴い、昭和53年度には1億円を突破、旧富士川町社協と合併した平成20年度以降は10億円超の規模で推移し、令和元年度は、オリーブの丘建設工事の影響もあり、約60倍の会計規模となった。その中でも、平成10年度には小規模授産所(現 障害者就労支援事業所)の建物と運営を富士市中心身障害児(者)を守る会(現 富士市手をつなぐ育成会)から譲受、(財)富士市社会福祉事業協会との統合(社会福祉センターの運営受託)、平成12年度には介護保険制度開始、平成28年度には富士川地域福祉センター建物を市から譲受した事により、会計規模が増額している。

富士市社会福祉協議会 会計規模(決算ベース)

※単位:百万円

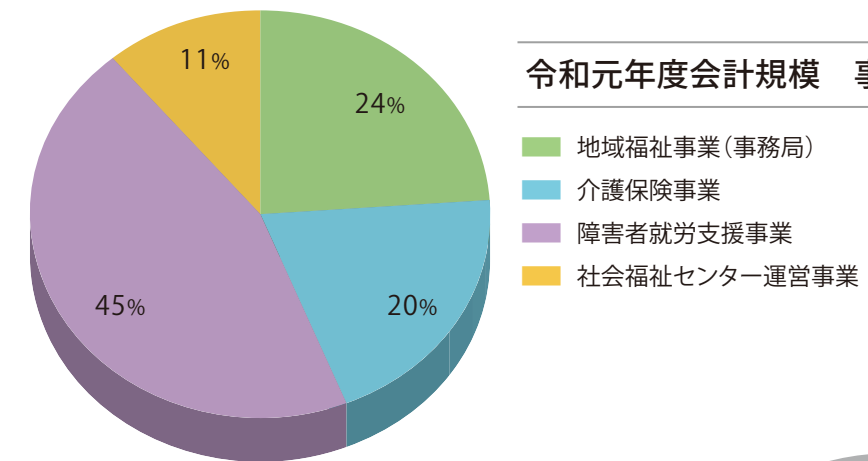


令和元年度 会計内訳

令和元年度は、オリーブの丘建設工事の影響もあり、地域福祉事業(事務局)が24%、介護保険事業が20%、障害者就労支援事業が45%、社会福祉センターが11%の会計規模となっている。

収入は会費・寄附金・補助金・共募配分金・受託金で25%、介護保険事業が15%、障害福祉サービス等事業で24%を占め、また支出は、人件費が47%を占めている。

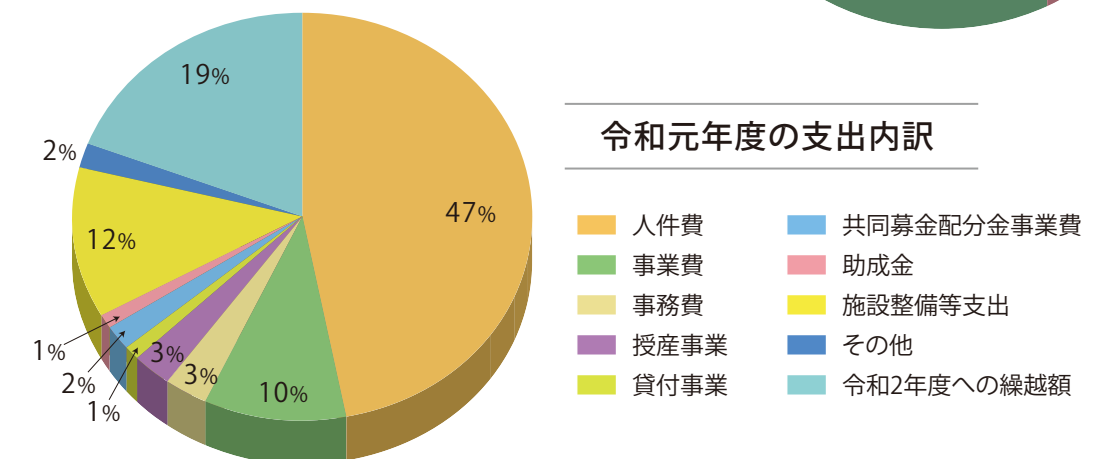
令和元年度会計規模 事業別内訳



令和元年度の収入内訳

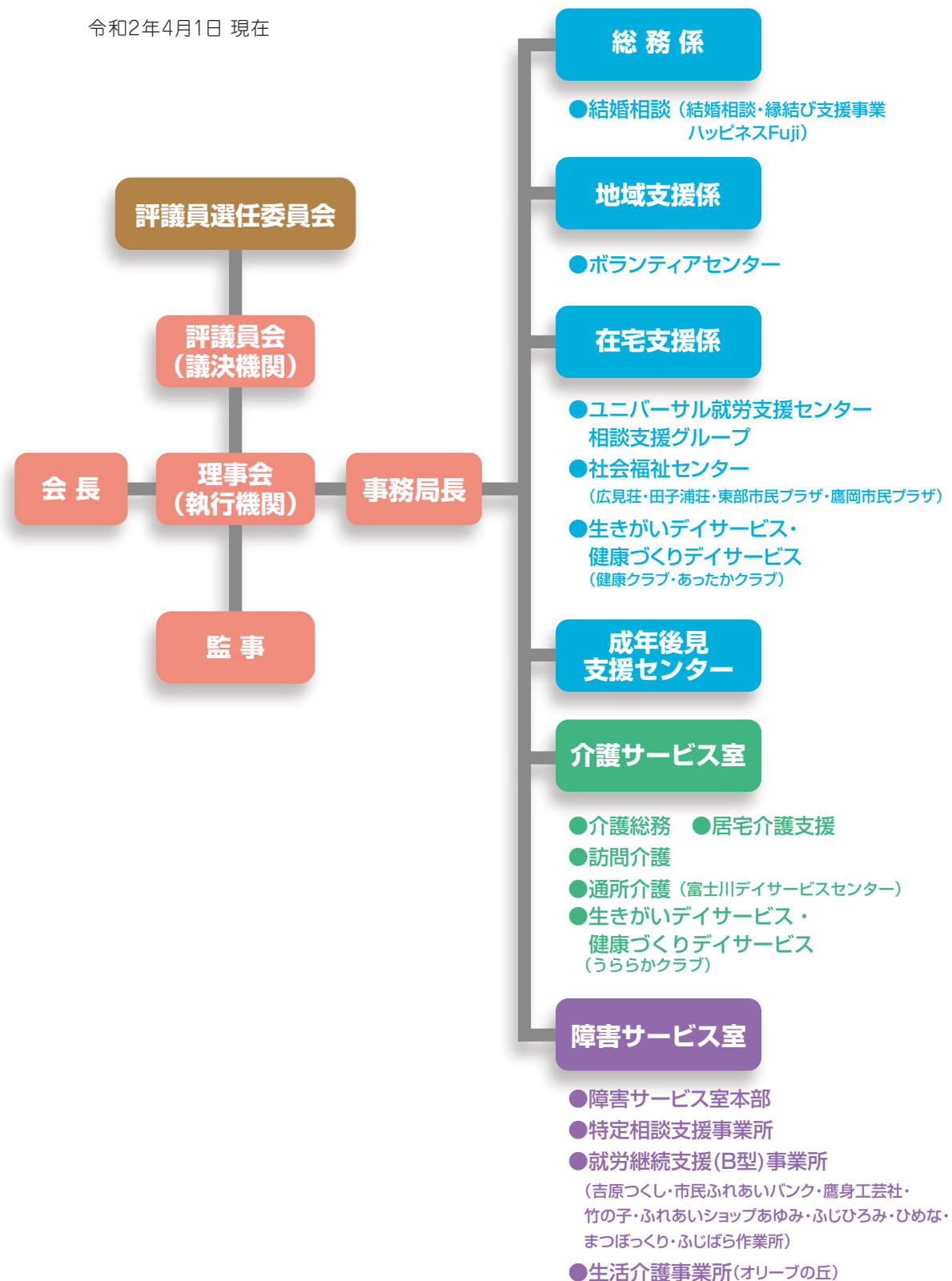


令和元年度の支出内訳



組織体系図

令和2年4月1日 現在



富士市社会福祉協議会法人設立50周年記念事業

シンボルマーク・福祉の標語

法人設立50周年記念に当たり、シンボルマークデザインを一般募集、
福祉の標語を富士市内の小中学生から募集し、
選考の結果、最優秀賞に次の方の作品が選ばれました。

令和元年12月制定

シンボルマーク

〈作者〉川上秀彦さん（富士市厚原 会社員）



富士市のシンボル『富士山』
をメインに描き、福祉を通して
人と人との繋がりや団結、助け
合いを意味するよう手をつない
でいるようなデザインにしまし
た。マーク中央のハートは人に
対する優しさ、愛情を表現した
ものです。

福祉の標語

〈作者〉中村朱里さん（須津小学校5年生）

広げよう 福祉と心の 大きな輪

富士市社会福祉協議会法人設立50周年記念事業

実行委員会

(敬称略)

- 〈実行委員長〉 渡邊 啓視 (市社協副会長)
- 〈副実行委員長〉 青柳 正 (旧富士川町社協副会長)
- 本多 恒康 (市民生委員児童委員協議会副会長)
- 〈実行委員〉 渡邊 睦 (〈福〉岳陽会理事長)
- 金刺 節子 (市ボランティア連絡会)
- 原 睦雄 (前 市地区福祉推進会連絡会副会長)
- ※原 睦雄様は、令和2年6月18日急逝されました。
謹んでご冥福をお祈りいたします。
- 鈴木 孝治 (市社協常務理事)



記念誌編集委員会

- 〈編集責任者〉 神尾 秀彦 (事務局長補佐兼在宅支援係長)
- 〈編集委員〉 石川 一夫 (総務係職員〈非常勤〉〈前 常務理事〉)
- 菅谷 英司 (総務係職員〈嘱託〉)
- 渡邊 義高 (地域支援係長)
- 稲岡 宏昭 (総務係主査)
- 渡邊 美保 (地域支援係主査)
- 佐野 直之 (在宅支援係主査)
- 横山 博美 (介護サービス室介護支援専門員)
- 成瀬 俊亮 (障害サービス室事務職員)

令和2年4月1日現在

法人設立



50周年

広げよう 福祉と心の 大きな輪

わたしたちは社協を応援します！



わたしたちは社協を応援します！

～ 誇れる技術と信頼 未来へつなぐものづくり ～

井上建設株式会社

代表取締役社長 井上有之

〒416-0931 富士市蓼原49番地の11 TEL 0545-61-4002(代表) FAX 0545-64-6422

やさしさをかたちに

ケア商品事業部(ペットシートなどのトイレタリー製品の製造・販売)

福祉事業部(福祉用具のレンタル・販売)



やさしさをかたちに
株式会社 コーチョー

〒419-0201 富士市厚原字川窪295 TEL 0545-71-2610 FAX 0545-71-2047



富士から世界へ 産業用素材製造設備メーカー

株式会社 小林製作所

〒416-0921 富士市水戸島2-1-1 TEL 0545-61-2400

<http://www.kobayashieng.co.jp/>



群生和楽～すべての人々の幸福のために～

社会福祉法人 誠信会

理事長 長谷川 文徳

〒417-0847 富士市比奈1354 TEL 0545-38-1941 FAX 0545-34-4408

<http://www.seishinkai.info>

わたしたちは社協を応援します！

富士山のように高く、駿河湾のように深く



本店	富士市青島町212	0545-53-2002	今泉支店	富士市宇東川東町4-1	0545-52-1815	富士宮東支店	富士宮市東町9-5	0544-26-3711
吉原支店	富士市御幸町5-1	0545-52-5031	伝法支店	富士市吉原5-1-21	0545-52-0180	八幡町支店	富士市八幡町5-11	0545-64-7001
富士支店	富士市平坦本町4-4	0545-61-5120	吉原駅南支店	富士市錦川東町4-9	0545-33-1405	今泉北支店	富士市今泉1-5-5	0545-51-8000
鷹岡支店	富士市鷹岡本町9-17	0545-71-2010	広見町支店	富士市広見西本町6-14	0545-21-5130	森島支店	富士市森島425-1	0545-64-8211
岩松支店	富士市岩本98-1	0545-61-5140	富士宮支店	富士宮市城北町66	0544-27-8811	大淵中野支店	富士市中野212-1	0545-36-2220
駅南支店	富士市横割本町16-10	0545-61-5142	厚原支店	富士市厚原869-1	0545-71-7266	須津支店	富士市神谷422-7	0545-34-1080
富士岡支店	富士市富士岡1457-7	0545-34-0405	富士見台支店	富士市富士見台6-3-13	0545-21-2141	相談プラザ	富士市青島町212	0120-42-8899
蒲原支店	静岡市清水区蒲原新田1-18-19	054-385-3195	田子浦支店	富士市川成新町276	0545-63-7311			



皆様に支えられて117周年

社会福祉法人 芙蓉会

児童養護施設 ひまわり園

乳児院 恩賜記念みどり園

特別養護老人ホーム みぎわ園

〒417-0001 富士市今泉2220 電話：0545-55-1118(代表)



丸富衛材株式会社
美藤製紙株式会社
小野製紙株式会社
丸富コンパニング株式会社
丸富紙工株式会社
丸富流通株式会社
丸富エンジニアリング株式会社



丸富製紙株式会社
〒417-0847 静岡市富士市比奈678 TEL (0545) 38-0103
ISO 14001 認証取得企業 営業所/東京 ―名古屋―大阪
<http://www.marutomi-seishi.co.jp>

暮らしと環境を工夫する 丸富製紙グループです

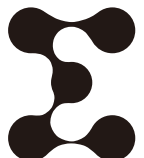
電気設備工事を通じて、地域社会に貢献する

電気・計装・電気通信・空調設備設計施工

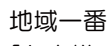
村松電機株式会社

〒419-0201 富士市厚原232番地の2 TEL 0545-52-5597 FAX 0545-52-6687

わたしたちは社協を応援します！

“やさしさ”につながるものづくり ノベルティー用トイレットペーパー紙製品加工販売 清涼飲料水製造販売 リサイクル事業  旭産業株式会社 〒417-0002 富士市依田橋403-2 TEL 0545-32-1781 FAX 0545-32-1787 URL: http://www.asahi-sangyo.net	すべてはあなたの笑顔のために 社会福祉法人 岳陽会 特別養護老人ホーム 岩本園 デイサービスセンター みもざ 地域密着型特別養護老人ホーム あおば デイサービスセンター サルビア ケアハウス コフレ・アントレード富士 障がい者グループホーム なでしこ ケアハウス 慈恩 富士北部地域包括支援センター 〒416-0905 富士市五味島285-1 TEL 0545-65-3333 FAX 0545-65-3334 URL www.gakuyoukai.or.jp
いいことあった日  を買う フジテレビ フラワーネット加盟店 有限会社 グリーンはうす 〒417-0801 富士市大淵209-15 TEL 0545-35-3877 FAX 0545-35-3501	 「アナタのなりたい」を応援します。 福祉のお仕事をお探なら (福)静岡県社会福祉協議会 静岡県社会福祉 人材センター 〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70 シズウエル3F TEL 054-271-2110 
「楽しいことを みんなでやろう!」 楽しいことや座は、地域の人々が安心して 暮らしていけるよう楽しみながら支援します NPO法人 楽しいことや座 〒417-0057 富士市瓜島町102-2 TEL / FAX 0545-30-7705	 TOA GROUP Build-service・Biso 私たちは、建物という “お客様の大切な資産”を お守りします。 株式会社 東亜ビルサービス 〒419-0201 富士市厚原131-1 TEL 0545-72-3211 
はたらく理由によりそう 安心してお仕事をして頂けるよう、充実した サービスと親身なサポートをご提供します。  東海道シグマ 〒420-0857 静岡市葵区御幸町8-1 JADEビル5F TEL 054-272-0072	仏智豊かな たくましい 思いやりのある子 社会福祉法人 福聚会 中里保育園 (法人本部) 〒417-0826 富士市中里1760-22 TEL 0545-34-2471 FAX 0545-34-2476 蓮沼保育園 〒416-0933 富士市中丸99-4 TEL 0545-67-4608 FAX 0545-67-4611

わたしたちは社協を応援します！

信頼され、役に立ち、満足される 商工会議所をめざして 経営者さまの心強いパートナー  富士商工会議所 〒417-8632 富士市瓜島町82 TEL 0545-52-0995 FAX 0545-52-9796	企業のロジスティック戦略パートナー 営業倉庫で企業のロジスティック戦略を応援します。 運送、サプリメントの小分け包装、 機密文書保管と処理。 YAMASEI WAREHOUSING CO.,LTD. 〒417-0001 富士市今泉187-1 TEL 0545-52-6881 FAX 0545-52-9934
エコキュート・IHのことなら リフォームの  地域一番 「お客様のキモチをカタチに…」 を目指して! (株)吉原中央電業社 〒417-0052 富士市中央町3-4-1 TEL 0545-51-1020	たくさんの 皆様からの 広告協賛を いただき誠に ありがとうございます  
あいおいニッセイ同和損保 MS&AD INSURANCE GROUP 〒416-0954 富士市本市場町833 TEL 0545-61-8711	各種板紙貼合加工 (有) 石坂紙工 〒417-0862 富士市石坂70-6 TEL 0545-52-1371
お茶の 一色園 〒417-0808 富士市一色357 TEL 0545-21-6739 FAX 0545-21-6487	おかげさまで10周年! 感謝を込めて作ります。 大學芋専門店 いもやみも蔵 〒419-0203 富士市鷹岡本町7-8 TEL 0545-71-8911 木・金・土・日11:00~17:00
濃縮緑茶 優茶製造販売/除菌・消臭剤ネオリカ製造販売 新たなアイデアを生み出す創造力を高め、前に進み続ける企業を目指します。 株式会社 MID 〒416-0947 富士市宮下301-7 TEL 0545-32-8203 FAX 0545-32-8204	このまちの風景をつくろう、残そう。  遠藤建設株式会社 〒416-0931 富士市蓼原54番地の7 TEL 0545-61-5133 FAX 0545-64-6826
心療内科 精神科 神経科 大富士病院 〒417-0809 富士市中野249-2 TEL 0545-35-0024(オオフジ)	地域に拓かれ、愛される地域福祉の拠点 社会福祉法人 鑑石園 〒417-0852 富士市原田1350-16 TEL 0545-52-0016

わたしたちは社協を応援します！

葬儀・仏壇・仏具・花環・生花 (有) 金 刺 葬 祭 〒417-0071 富士市国久保2-1-2 TEL 0545-51-2830	家族葬専用式場 金刺葬祭比奈会館 富士市比奈619-1 TEL 0120-44-2830 国道一号線富士東インターより車で北へ5分
《きらきらとした笑顔あふれる憩いの場》 社会福祉法人 きらら富士 県民厚生会 〒417-0808 富士市一色258-47 TEL 0545-23-1600 FAX 0545-23-1666	K 小泉印刷株式会社 Koizumi printing co.,ltd. 〒416-0931 富士市蓼原637 TEL 0545-62-6001
国際ソロプチミストは女性の世界的な奉仕団体です 国際ソロプチミスト富士 2020年9月～2021年8月期 会長 矢部真由美	いのちと、本気で向き合う仕事を。 社会福祉法人 湖 成 会 〒417-0801 富士市大淵847-4 TEL 0545-35-2244
循環器内科・呼吸器内科・内科 医療法人社団 さくらが丘クリニック 〒417-0809 富士市中野527-27 TEL/FAX 0545-36-2866	住む人、建てる人の暮らし 建築資材販売 株式会社 サントク 〒417-0001 富士市今泉2305-13 TEL 0545-51-3109 (サントク) FAX 0545-51-4540
総合建設業 (株) 三 和 工 務 店 〒417-0061 富士市伝法1659-15 TEL 0545-52-2587	富士から全国へ 安心街づくりのお手伝い 静岡ホーチキ株式会社 〒417-0061 富士市伝法 2514-1 TEL 0545-52-5205 FAX0545-52-5598
オレンジ ツアー 旅行のことならおまかせ下さい。 私達は、お客様のたえない笑顔を創造します！ 静鉄観光サービス株式会社 富士支店 観光庁長官登録旅行業153号 日本旅行業協会 (JATA)正会員 〒416-0908 富士市柚木203-1 TEL:0545-64-7111 http://www.shizutetsukanko.com	総合家庭紙卸業 昭 新 紙 業 (株) 〒417-0001 富士市今泉字高尾奈483-1 TEL 0545-52-1241
指定相談支援事業 地域活動支援センター 共同生活援助事業 社会福祉法人 昭隆会 〒417-0801 富士市大淵2815-2 TEL 0545-35-2911	「各種自動車販売」「車検・修理」「板金塗装」「バイク修理」 ジェイオート富士 〒416-0908 富士市柚木324-3 TEL/FAX 0545-61-1135
ダンボール・紙ひも・各種梱包資材製造販売 鈴 木 紙 器 (有) 〒417-0852 富士市原田1447-1 TEL 0545-21-2659	ガラス修理・アルミサッシ・エクステリア工事 有限会社 鈴国ガラス店 〒417-0854 富士市宇東川西町1-55 TEL 0545-53-6771 FAX 0545-53-7531

わたしたちは社協を応援します！

IT・OA機器の専門商社・メンテナンス 株式会社スワベ商会 〒417-0061 富士市伝法3026-1 TEL 0545-51-8881(代表) FAX 0545-51-8885	グラフィック＆WEBデザイン タイムデザイン 〒416-0933 富士市中丸264-2 TEL・FAX 0545-60-5253
いいお菓子 いい出会い 御菓子庵 田子の月 〒417-0001 富士市今泉380-1 TEL 0545-52-0001	富士山の眺望と香り高いコーヒーで上質なひとときを！ タリーズコーヒー 富士市中央公園店 〒416-0953 富士市蓼原町1822(中央公園内) TEL/FAX 0545-65-9890
創業100年を超え ものづくりの誇りと挑戦を次の未来へ DAIWA.MT Daiwa Mastering Technology 〒417-0801 富士市大淵539 TEL 0545-35-0350 FAX 0545-35-0466	皆様の視察・研修旅行をお手伝い CKT(中央観光トラベル) 〒422-8005 静岡市駿河区池田674-1 TEL 054-263-8820
強い菌で強く生きる、乳酸菌 シロタ株。 中央静岡ヤクルト販売(株) 〒420-0913 静岡市葵区瀬名川3-3-43 TEL 054-264-8960 FAX 054-263-5525	土木一式・舗装工事 司道路株式会社 〒417-0847 富士市比奈1286-12 TEL 0545-34-0125
測量・土木設計 遠 山 工 務 所 〒417-0051 富士市吉原3-9-17 TEL 0545-52-0165 FAX 0545-53-8800	美味しいお米をお届けします 内 藤 米 店 〒417-0801 富士市大淵99-33 TEL/ FAX 0545-36-1085
各種ユニフォーム・刺繍加工 プリント加工・縫製加工 中 川 衣 料 (株) 〒417-0051 富士市吉原4-18-17 TEL 0545-52-2206	障害児の放課後や長期休み中等の支援をします (株)なんくる 放課後等デイサービスなんくる 〒417-0055 富士市永田町2-109-1 TEL・FAX 0545-30-9811
ヤマハ・ゴルフカー・サービス店 誘導線関係の修理承ります 日 進 電 装 (株) 〒417-0061 富士市伝法2381-1 TEL 0545-52-6995	ケアハウス富士の里 小規模多機能型居宅介護・グループホーム 社会福祉法人 博美会 〒419-0205 富士市天間1626 TEL 0545-72-5555
製紙原料古紙問屋 (有)花の木商事 〒417-0001 富士市今泉635-3 TEL 0545-53-5307	オリジナルトイレットペーパーを作ります 林 製 紙 (株) 〒417-0847 富士市比奈626 TEL 0545-34-1441

わたしたちは社協を応援します！

クラシカルから歌謡曲まで 教室・出張・オンラインで楽しめる音楽教室 ピアノ教室 フジヤマ 〒417-0801 富士市大淵96-7 TEL 0545-35-3490 Email fujiyama800@gmail.com	味の正統を継ぐ 福泉産業株式会社 〒417-0826 富士市中里150-1 TEL 0545-34-0802 FAX 0545-38-0297
子どもの最善の利益を守るための保育・教育を行う 社会福祉法人富士育英福祉会 富士保育園 岩松保育園 すみれ認定こども園 ドゥーラの森 〒416-0911 富士市八幡町3-4 TEL 0545-61-0064 FAX 0545-61-0771	工業・建材・雑貨等の樹脂部品の成型加工を 地元で50年創業しています 富士川プラスチック工業(株) 〒421-3306 富士市中之郷2022-1 TEL 0545-81-0331 FAX 0545-81-3461
廃棄物の中間処理、最終処分 株式会社 富士環境保全公社 本社 〒417-0803 富士市桑崎904-10 TEL 0545-23-0900 (代表)	fujigift.com (株)フジギフトセンター 〒416-0922 富士市水戸島元町5-10 TEL 0545-64-0560  Google MAP
カビの力を借りて 120年 (株)フジコウジ 本多醸造所 〒417-0841 富士市富士岡1450 TEL 0545-34-0133 〒417-0832 富士市中柏原新田228 TEL 0545-33-0145	社会基盤の整備、地域の安全・安心を担う 「地域の守り手」 富士市建設業組合 〒416-0954 富士市本市場町770 TEL 0545-63-9138
地域社会の拠りどころとなる 協同組合をめざします。 富士市農業協同組合 〒417-0046 富士市青島200-1 TEL 0545-51-2121	社会福祉の増進をめざします 富士市福祉事業協力会 〒417-0051 富士市吉原2-11-8 ほんいちパーキング3階 TEL 0545-51-2371
安全、確実、スピーディな輸送とサービス 富士トラック株式会社 〒416-0946 富士市五貫島1414 TEL 0545-61-0298 FAX 0545-61-7043	ー地域と共に70余年ー 富士ニュース社 〒417-0001 富士市今泉1-15-14 TEL 0545-52-0551 (代表) FAX 0545-51-0507
トイレットペーパー、BOXティッシュ 家庭紙業務用販売 古谷商事有限会社 〒417-0061 富士市伝法1000 TEL 0545-52-1347 FAX 0545-53-7397	障害福祉サービス IFU株式会社 就労A型 Lハート・グループホーム BREMEN中里 〒417-0811 (Lハート事業所) 富士市江尾246-7 TEL 0545-30-9100 FAX 0545-30-9101
 総合建設業 平和建設株式会社 〒416-0909 富士市松岡1566-1 TEL 0545-63-2711	お車のことなら何でも Honda Cars 富士東 〒417-0002 富士市依田橋770-1 TEL 0545-33-0383

わたしたちは社協を応援します！

紙のまち“富士市”で、紙を“つくる” お手伝いさせていただきます。 ミツオキエンジニアリング(株) http://mitsuokieng.com/	自らが受けたいと思う医療と福祉の創造 医療法人財団 百葉の会 〒417-0801 富士市大淵405-25 TEL 0545-36-2145
建築工事業  株式会社 柳下建設 〒421-3305 富士市岩淵201 TEL 0545-81-0468(代表) FAX 0545-81-3768	文具・事務機器のなんでも屋 株式会社 ヤツクラ 〒421-3305 富士市岩淵41 TEL 0545-81-0063 FAX 0545-81-2022
自慢の味と豊富なメニューの安価な定食店 やよい軒 富士本市場店 〒416-0906 富士市本市場427-5 TEL・FAX 0545-65-8570 http://www.yayoiken.com	情報システム開発・販売・保守 不動産仲介業 株式会社 ゆとり 〒416-0944 富士市横割1-17-24 TEL 0545-64-9800
放送を通じて地域経済の活性化を促す役割を果たします ラジオエフ 84.4FM 〒417-0051 富士市吉原2-10-20 TEL 0545-55-1123 (代表) FAX 0545-57-6812	建築設計・工事監理 株式会社 稜設計事務所 〒416-0944 富士市横割1-20-36 TEL 0545-61-3271
心療内科 精神科 ロゼにじいろクリニック 〒416-0953 富士市蓼原町1605 TEL 0545-61-2416(ニジイロ)	



社会福祉法人富士市社会福祉協議会
法人設立50周年記念誌

発行日 令和2年11月
発行 社会福祉法人 富士市社会福祉協議会
監修 法人設立50周年記念事業実行委員会
編集 法人設立50周年記念誌編集委員会
デザイン タイムデザイン
富士市中丸264-2
電話(0545)60-5253
印刷 (有)富士ニュース社
富士市今泉1-15-14
電話(0545)52-0551